

町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針



自由民権資料館



村野常右衛門 生家
(野津田公園)



自由民権の鐘
(薬師池公園)



自由民権の碑
(ぼたん園)

【 目 次 】

自由民権資料館の沿革	1
1 自由民権資料館の設立に至る経緯	
(1) 町田市史編さん事業の終了	
(2) 民権家子孫からの土地寄付の申し出	
2 社会的背景	
(1) 町田市域と自由民権運動	
(2) 「自由民権百年」運動	
I あり方見直し方針検討の背景	4
II 自由民権資料館の役割や事業内容の見直し	5
1 現状分析	
(1) 事業の実績と課題	
①史料収集・整理・保管・調査研究 ②展示事業 ③普及事業	
④図書刊行 ⑤広報活動	
(2) 利用者数	
(3) 地理的環境	
(4) 市民の声	
①生涯学習に関する市民意識調査から	
②来館者アンケートから	
③まちだ自由民権カレッジ同窓会アンケートから	
④町田薬師池公園四季彩の杜におけるアンケートから	
⑤生涯学習施設におけるアンケートから	
2 自由民権資料館の課題	15
3 自由民権資料館の使命の再確認	15
(1) 自由民権運動の意義を評価し発信する	
(2) 町田市域の歴史を伝え郷土愛を育む	
(3) 歴史の学びを通し個人と社会をつなぐ	
4 自由民権資料館のめざす姿と事業の見直し	16
(1) <自由民権運動の学びを現代(地域)に活かす>	
(2) <町田市域の歴史を継承する>	
(3) <歴史の学びを通して人と地域をつなぐ>	
III 効率的・効果的な管理運営体制の検討	18
1 現状分析	
(1) 2019年度 町田市行政評価シートから	
(2) 博物館等の運営に関するアンケートから	
2 管理運営体制の課題	
3 管理運営体制の見直し	
(1) 運営手法の検討	
(2) 検討結果を踏まえた見直し	

自由民権資料館イメージキャラクター



みんみん
民民



みんけん
民犬

1 自由民権資料館の設立に至る経緯

(1) 町田市史編さん事業の終了

1968年に市制施行10年の事業としてスタートした『町田市史』の編さん事業は、1976年に『町田市史』下巻を刊行し終了した。市史編さん室はその後、普及版として『町田の歴史をさぐる』及び『町田の歴史をたどる』を刊行したが、市史編さんで収集した資料の保管、蓄積された情報をどのように継続して発信していくかが大きな課題となっていた。

市では1973年に郷土資料館を開館したが、1976年には博物館と改称し美術・工芸等に力を入れるようになっていった。

(2) 民権家子孫からの土地寄付の申し出

1984年、民権家・村野常右衛門のご子孫より自由民権運動の意義を伝えるために活用してほしいとの条件で、「凌霜館(りょうそうかん)」跡地寄付の申し出があった。その背景には、熱心な「自由民権百年」運動や研究・学習活動があった。凌霜館は、1883(明治16)年に村野が私財をさいて建てた若手民権家育成のための文武館(道場)で、政治的野心に燃えた青年たちの熱い思いが結集した〈自由民権運動ゆかりの地〉といえる。

市では土地寄付の申し出を受けて検討した結果、①自由民権運動という地域の歴史上の特徴、②市民の能動的活動としての「自由民権百年」という社会背景、③町田市史編さん事業終了による後継業務の必要性を総合的に判断し、自由民権運動の歴史的意義・今日的意義を検証し後世に伝えることと、市史編さん事業を引き継ぎ町田の歴史全般を扱いながら、市民の活力を醸成することを目的とした資料館として建設を構想、1986年11月3日に開館した。

《村野常右衛門(むらのつねえもん)》

多摩郡野津田村生まれ。自治運動に取り組んだのち政治結社融貫社を結成、文武道場凌霜館(りょうそうかん)を建てて若手民権家の育成に尽力。激化事件の一つ大阪事件に参加。衆議院議員に8期当選、立憲政友会では原敬の右腕として活躍した。横浜倉庫・横浜日日新聞・満洲日日新聞などの社長も務めた。



自由民権資料館の沿革

年	事項
1976年	『町田市史』下巻刊行
1984年	民権家ご子孫より凌霜館跡地を含む土地の寄付を受ける。 自由民権運動関係の資料館の建設を構想
1986年	自由民権資料館開館
1987年	企画部から教育委員会文化部に移管
1994年	増築工事着工
1996年	竣工、リニューアルオープン
2000年	文化部から生涯学習部に名称変更
2008年	生涯学習部社会教育課から生涯学習総務課に名称変更
2019年	改修工事着工(2020年竣工)

自由民権資料館の設立経緯



自由民権資料館の設置目的

自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して、市民の利用に供し、自由民権運動と町田の歴史についての市民の理解を深めるため、自由民権資料館を設置する。

《三春町自由民権記念館・高知市立自由民権記念館の開館》

自由民権運動を冠する博物館施設は、「町田市立自由民権資料館」「三春町自由民権記念館」「高知市立自由民権記念館」の3館である。

福島県三春町では、歴史民俗資料館の建設計画にあわせ、1983年に町民の寄付により自由民権記念館が併設・開館された。高知市立自由民権記念館は、市制100年事業として計画され1990年に開館した。西日本最大の近代史専門博物館である。両者とも「記念館」という名称の通り、民権家たちの業績を顕彰し、継承することに重きを置く記念館である点が特徴である。なお、両者とも自由民権運動・近代史を専門とする学芸員は在籍していない。

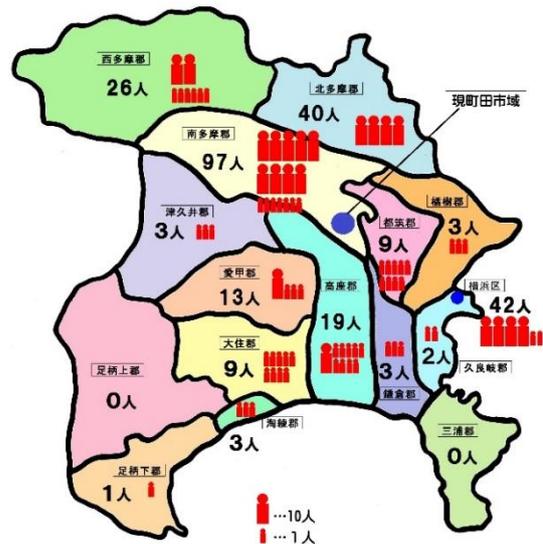
2 社会的背景

(1) 町田市域と自由民権運動

自由民権運動は、徴兵・納税の義務を強制し、権利の行使を極端に制限した明治政府に対して、憲法創造・国会開設により国民の参政権を保障することで、国民の能動性を引き出そうとした明治 10 年代の政治運動である。民権運動は、〈自由〉〈民権〉という言葉が人びとに新鮮な感動を与え、内に秘めた活力を呼び起こし、多くの人びとを新しい社会と国家の創造に駆り立てた。

当時の神奈川県は、東京・横浜の政治的・文化的影響を受ける環境にあったが、北・西・南多摩、都筑、橘樹（たちばな）、久良岐（くらき）武蔵国 6 郡と津久井、高座、愛甲、鎌倉、三浦、大住、淘綾（ゆるき）、足柄上・下の相模国 9 郡からなり、当初の民権運動は武蔵・相模に分かれて展開していた。旧神奈川県域平野部のほぼ中央に位置する地理的条件も手伝い、石阪昌孝・青木正太郎・村野常右衛門・細野喜代四郎ら町田市域の民権家は、武・相の両者を結びつけ〈武相自由民権運動の中心〉にするエネルギーにあふれていた。

神奈川県郡別自由党員数



(2) 「自由民権百年」運動

自由民権運動研究は、日本における民主主義運動の ^{さきがけ} 魁として戦後歴史学の最重要課題の一つと位置付けられてきた。1981 年の「自由民権百年」は専門研究者にとどまらず、多くの市民が参加する学習活動・顕彰運動として他に類を見ない規模の運動となり、3回の全国集会（81・84・87 年）や全国各地で学校教育・社会教育として地域学習の実践がなされた。町田市は、特に熱心な地域の一つで「武相民権運動百年実行委員会」事務局が置かれ（80 年 3 月）、「現代の民権を考える町田の集い」（81 年 1 月）が開催されるなど、「市民と歴史運動の深いつながり」を謳った市民による学び合いの活動が展開した。

I あり方見直し方針検討の背景

町田市では、自由民権運動と町田の歴史について市民の理解を深めることを目的とし、自由民権資料館を1986年11月に開館した。町田史の特色の一つである自由民権運動を市内外に発信するとともに、市域の歴史資料を収集・保存し、後世に伝えていくための郷土資料館としての役割も果たしてきた。

その一方で、開館から34年が経過し、時代とともに人口減少や超高齢化社会の到来、またデジタル技術の発展やそれに伴うグローバル化など社会状況は大きく変化している。

また、町田市では行政経営上の課題解決に向けた取組をまとめた「行政経営改革プラン」や公共施設等の総合的かつ計画的な管理をおこなうための方針となる「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」、さらにはその実行計画である「町田市公共施設再編計画」を策定し、市全体で行政サービスの効率化や公共施設の再編に向けた取組を進めている。

そのような中、2020年度には町田市立博物館の民俗資料を含む歴史資料が自由民権資料館にすべて移管されることのほか、新たな町田市史の編さんを求める市民の声が高まっていることなど、自由民権資料館を取り巻く環境も変化している。

これらの状況を踏まえ、現状や課題を分析し、効率的・効果的な管理運営と将来を見据えた自由民権資料館のあり方について後述のとおり整理をする。



Ⅱ 自由民権資料館の役割や事業内容の見直し

1 現状分析

(1) 事業の実績と課題

① 史料収集・整理・保管・調査研究

i 史料収集

これまで自由民権資料館では、広報やHP上で史料の寄贈・寄託を呼びかけ、収集活動を行うことで、町田の歴史を後世に残す貴重な史料が散逸しないよう努めてきた。また市民からの寄贈も多く、史料は毎年増加している。

(資料編P.1 I 収蔵史料の状況 参照)

ii 史料整理

地域に残る史料の内容を把握することを目的として行う史料整理は、新たな地域の歴史像の構築や展示企画の構成、図書・史料集刊行、講座の企画など自由民権資料館業務全般に関係する重要な作業である。

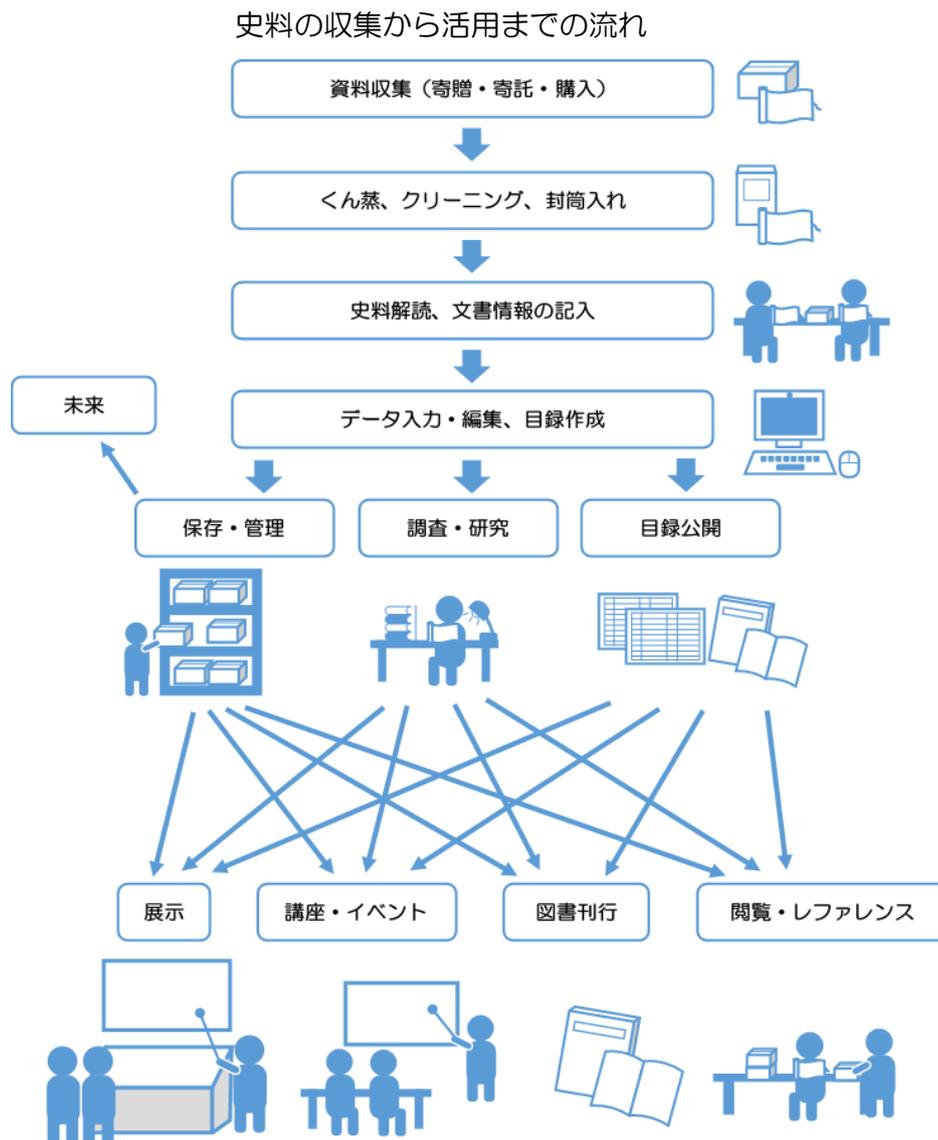
《史料整理作業の工程》

- ①封入れ…史料を1点ずつ史料の劣化防止のため中性紙封筒に入れる
- ②史料解読、文書情報の記入…年代・史料内容・差出・受取・形態などの情報を封筒に記入する
- ③データ入力…封筒に記入した内容を入力する。
- ④データ編集、目録作成…活用利便性のため、種類や年代の並べ替え、分類化等を行い目録を作成する。

現在、各学芸員がそれぞれ文書群を担当し、上記①～④の作業をそれぞれ進めている。これに加えて、大学のゼミや研究者有志などのボランティアや市民グループとの協働で作業を進めている。

	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
明治大学史料整理ボランティア	10	68	10	73	9	35	8	28
野津田町河井家文書整理ボランティア			5	20	5	20	9	20
浪江虔文書整理ボランティア	20	80	22	88	23	92	8	32





iii 史料保管

収蔵されている史料は、1点ごとに中性紙封筒へ入れ、史料群ごとに中性紙保管箱に納め、地区別（旧村別）に区分けし、一定の温湿度が保たれた収蔵庫で保管している。収蔵庫内の史料は、寄贈や寄託の受け入れ時、また、常設展や企画展・特別展・季別展の展示後、害虫対策のため燻蒸作業を行った上で、収蔵庫へ収納する。その他、書籍など一部の資料は、旧忠生六小に一時保管している。

iv 調査・研究

史料はくずし字や古語などで書かれている。誰にでもわかるようにするためには、解説文が必要となり、調査・研究は不可欠である。その成果は、各種展示や刊行物及び講座で発信している。

【史料収集・整理・保管・調査研究の課題】

◆収集史料の保存・保管基準の作成

毎年収蔵史料が増加する中で、収蔵庫内の空きスペースは減少している。収納場所の再編と収集方針の確立が必要である。

◆史料整理の効率化及び効果的な活用の推進

歴史資料を保管していくために必要な史料整理は、展示や講座などの事業の基となる重要な作業である。史料整理の作業は高度な専門性を要するため、職員を中心に少人数での作業で進めてきた。そのため、現在整理が終わっている史料は全体の35%程度に留まる。今後、自由民権資料館の活動を豊かにするとともに効果的に史料を活用していくため、史料整理を効率的に進める手順や手法を検討する必要がある。

② 展示事業

展示事業は、自由民権資料館の施設利用において大きな役割を担っている。常設展示室と企画展示室を利用し、常設展・特別展・企画展・季別展を開催しているほか、他の施設を利用したアウトリーチ展示にも取り組んでいる。

i 常設展

現在の常設展は、2016年にリニューアルした「武相の民権／町田の民権」をテーマに展示している。市域を中心に武相地域（＝多摩を含む旧神奈川県域）を対象にし、自由民権運動の歴史を中心に構成したものである。



常設展ポスターと常設展示室の様子（一部）

ii 特別展・企画展

年2回開催する特別展は、自由民権運動がテーマの展示を1回、地域の歴史がテーマの展示を1回と、性格分けをし開催している。

また、企画展は、市指定文化財の披露や新規収蔵品、史料集等の刊行記念等を中心とした内容で実施しているほか、考古資料の展示や市民との協働展なども実施してきた。



2019年度特別展ポスターと展示室の様子（一部）

iii 季別展

季別展は、2016年以降、常設展示室内に新たに設けた取り組みである。特別展や企画展において展示することができなかった資料や扱わなかったテーマについて季節ごとに展示を行うことで、展示替えの少ない常設展示室に変化を生み出している。

iv アウトリーチ展

近年収蔵史料のデジタル化により、史料画像をパネルに加工することが容易になったことから、館外のアクセスのよい場所における展示が可能になった。

2019年度には、町田市庁舎1階のイベントスタジオでパネル展を2回、忠生図書館でパネル展を1回アウトリーチ展としてを実施し、見学者の総数は2,163人であった。

2019年度は、施設の改修工事によって5ヶ月間の休館期間があったが、この間アウトリーチ展を実施したことで、例年同等の利用者数を維持することができた。

v 市民協働展

2009年度から実施している歴史講座「町田自由民権カレッジ」（以下、民権カレッジ。詳しくは普及事業参照）で執筆された卒業論文の内容を展示する市民協働展に2013年度から取り組んでいる。展示は民権カレッジ卒業生により組織された「同窓会」と連携しながら開催しており、民権カレッジ卒業生の継続的な学びの機会となっている。

vi 町田デジタルミュージアム

町田市の考古・歴史・民俗資料を、いつでも、どこでも、楽しむことができるインターネットミュージアム「町田デジタルミュージアム」の構築を2019年度から進めている。インターネットを通じて町田の歴史をわかりやすく紹介するデジタルアーカイブとして、2022年度に全面公開を予定している。

【展示事業の課題】

◆自由民権運動の情報センターとしての役割の強化

常設展は武相の自由民権運動を多くの人びとに理解してもらえるようにわかりやすく説明する必要がある。また、自由民権資料館の固有性を全国的にアピールするとともに、歴史描写についてより一層広い範囲を対象とする必要がある。

◆考古・歴史・民俗資料の一体的な活用

町田市立博物館の閉館に伴い、自由民権資料館の郷土資料館としての役割が一層求められるようになる。考古・民俗資料も組み込んだ展示について検討する必要がある。

③ 普及事業

i 古文書講座

古文書講座は、25年以上継続して実施している人気の講座である。

江戸時代の古文書をテキストに用いて、時代背景などを丁寧に説明しながら解読の手がかりや勉強の仕方を学ぶことができる入門編で、受講者の満足度は高い。講座終了後も歴史に関わる学習を継続する受講生もあり、市民の学習意欲を向上する機会にもなっている。(資料編P.1 II 古文書講座の満足度・理由 参照)

ii 町田自由民権カレッジ

主体的学びを求める人たちの受け皿になる講座を意識し、2009年度に立ち上げた歴史講座で、受講生が自分自身で調査して歴史をひもとく、考える力を身につけることができるようになることを目的としている。3年間のカリキュラムを設け、1年目に講義、2年目にゼミ形式での史料講読・演習、3年目は自ら選択したテーマの研究と卒業論文執筆を行う。

2019年度からは4期生が学んでおり、1期生から4期生まで受講生の累計は106名にのぼる。(資料編P.1 III 町田自由民権カレッジ応募者・受講者の状況 参照)

卒業生は「まちだ自由民権カレッジ同窓会」を組織し、学びを継続している。また、同窓会の中で個別テーマを研究する分科会が生まれ、史料の解読や調査に協力していただいている。



民権カレッジでのフィールドワーク
(2013年・2期生・真光寺)



まちだ自由民権カレッジ同窓会
会報『凌霜の風』

iii 特別講座

『町田市史』刊行40年を機に、町田市域の歴史を読み解き直すことを目的として、2016年度から開始した。新発見史料・最新の研究視角などを反映した歴史像を紹介している。講座では大学教授や研究者などの外部講師のほか、自由民権資料館学芸員も講師をつとめている。

iv フィールドワーク「町田の歴史を歩く」

史跡を散策しながら市域の歴史を紹介する企画で 2017 年度から開始した。日常の生活では気に留めないような石造物や、歴史上の場所を案内しながら、市域の歴史について理解を深めてもらうことを目的としている。

v 自由民権資料館まつり

開館 25 周年を迎えた 2011 年度から、自由民権資料館に親しんでもらう機会をつくる目的で開館記念日の 11 月 3 日に毎年開催してきた。

大人向けに、展示解説・収蔵史料大公開・古本市などを行い、子ども向けには、紙芝居・昔の遊び体験など、幅広い年齢層を意識し実施してきた。また、近隣の福祉施設や農家の方々に出店してもらうことで、地域と共生する自由民権資料館をめざしてきた。

vi 出張講義

生涯学習センター主催のまちだ市民大学 HATS など、市の施設だけでなく市内の地区協議会や社会福祉法人等のほか、他市の歴史講座においても自由民権資料館の学芸員は講師を務めてきた。また、市内小中学校や高校大学など教育施設から依頼を受けて出張授業を行っている。

【普及事業の課題】

◆学びを通じたコミュニティ形成の支援

イベントや講座などの受講後に、参加者同士の「学び」を通じたコミュニティが生まれており、継続的な支援が求められる。

◆郷土への愛着を育むための学校教育との連携

市内の児童・生徒・学生が地域への愛着や誇りを持つことができるよう、学校教育との連携した取り組みが必要である。

④ 図書刊行

自由民権研究情報センター・郷土資料館の両側面から情報発信し、市内外の利用者に供すべく、さまざまな刊行物を編み発行・頒布している。ホームページや SNS は即時的効果が高い反面、過去の情報を得にくい側面がある。一方、図書は情報を手元に残しておきやすいことから、利用者にとって過去の情報を得やすく、自由民権資料館が事業活動のなかで得た「知」の蓄積としても、より効果的な媒体であるといえる。(資料編 P.1 IV 刊行図書の分類 参照)

i 紀要『自由民権』(毎年度発行)

自由民権研究専門誌として、最新の研究成果を編み出すことで自由民権研究をリードしてきた逐次刊行物である。全国各地の研究動向を紹介する「民権ネットワーク」欄や「自由民権運動関係文献情報」は、自由民権運動の研究成果を知るためには必須の情報源となっている。

ii 『民権ブックス』（毎年度発行）

自由民権運動に関する展示の報告書として、展示解説文・講演録・史料紹介などにより構成されたブックレットである。自由民権運動の展示を開催しない年度には、年表や人名索引を作成している。

iii 史料集

『町田市史』や『町田市教育史』等に掲載されなかった市域の重要な史料群を翻刻掲載する『町田市史料集』を、市民グループとの協働で進めている。また史料集刊行を前提に武相地域の自由民権運動・近代に関する史料群の解説を進めている。

iv 史料目録

市民や郷土史家、専門研究者の史料閲覧に利用してもらうため、市域に残る自由民権資料館が収蔵する史料の目録を随時刊行している。

【図書刊行の課題】

◆多様な担い手との協働の推進

史料集を刊行するまでには、翻刻・解説作業などかなりの時間を要する。市民との協働を継続・推進するとともに、新たな担い手を養成しつつ図書刊行していく必要がある。

◆市域の歴史の研究成果の紹介・発信の充実

町田の歴史を扱った図書は『町田市史』『町田の歴史をたどる』以来刊行していない。市域の歴史研究の成果を発信し、情報や知識の蓄積を図る媒体について検討する必要がある。

⑤ 広報活動

施設の基本情報は、主にホームページや Twitter で発信している。施設情報・イベント情報・刊行物案内の各種情報に加え、特に、新型コロナウイルス感染症の影響により、展示を見学をしていただけなかった期間の対応として、常設展「武相の民権／町田の民権」の紹介ページを新たに設けた。

また、2019年10月から開設した Twitter では、ツイート回数を徐々に増やし、フォロワーも徐々に増加している。特に「#今日は何の日」として、その日にあった自由民権運動や町田の歴史にまつわる情報の配信は、「リツイート」や「いいね」が多く高評価を得ており、全体のフォロワー増加に寄与している。

（資料編P.1 V Twitter リツイート・いいね数の推移 参照）

展示・イベントの情報発信ではホームページや Twitter の他、ポスターやチラシを制作している。ポスターやチラシによって、情報を入手する方は依然として多い。また、「広報まちだ」やイベントダイアルによる情報配信も併せて行っている。

アナログメディア	デジタルメディア
<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター・チラシ ●広報媒体への広告掲載 ●雑誌等における資料館紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●町田市ホームページ ●Twitter ●町田デジタルミュージアム ●動画配信

【広報活動の課題】

◆多様な媒体による多彩な情報発信

ポスター・チラシなどのアナログ媒体とデジタル媒体をうまく融合したクロスメディアを意識した作成を心がけるとともに、利用者層（ターゲット）を検証して、ニーズに合致した情報発信のあり方を検討する必要がある。

◆周辺施設との連携の強化

自由民権資料館の周辺は観光資源に恵まれており、「町田薬師池公園四季彩の杜」をはじめとし、多くの市民が訪れる施設がある。そのような施設との連携について検討する必要がある。

(2) 利用者数

2013年度までの利用者数は、年間約5,000～6,000人で推移していたが、2013年度に事業仕分けの対象となり、その指摘を踏まえ改善に取り組んだことで、2014年度には初めて7,000人を超えた。その後、2016年度には開館30周年事業として常設展示をリニューアルしたほか、シンポジウムを開催するなどさまざまな事業を展開し、概ね横ばいで推移してきた。さらに、2019年度には自由民権資料館外でのアウトリーチ展に積極的に取り組んだ結果、開館史上最高となる8,084人の利用者数となった。



(3) 地理的環境

自由民権資料館への来館は、鶴川駅・町田駅・多摩センター駅からバスに乗る必要があり、気軽に立ち寄りやすい場所ではないが、近隣にある薬師池公園は「町田薬師池公園四季彩の杜」として、2020年4月に西園がオープンし多くの来訪者がある。北園・南園も計画中で、今後さらに来訪者の増加が見込まれる。また小野路の里山は「にほんの里100選」に選ばれ、宿通り、小野路宿里山交流館を訪れる方も多い。

さらに、自由民権資料館の周辺地域には、石阪昌孝屋敷跡及び墓・自由民権の碑・永井家住宅・荻野家住宅・薬師堂・鎌倉道・村野常右衛門生家及び墓・小島資料館など、歴史的資源が豊富に残り、現在も多くの人々が訪れている。

(4) 市民の声

①生涯学習に関する市民意識調査から <回答者数：1106人>

2017年度に実施した「町田市生涯学習に関する市民意識調査」によると、自由民権資料館を知っている市民は45.1%であるが、この1年間に利用したことがある市民は1.8%であった。また、知らないと回答した市民も40.1%であったことから、自由民権資料館の認知度は低い。

(資料編P.1 VI生涯学習に関する市民意識調査から 参照)

②来館者アンケートから <回答者数：158人>

2019年度の来館者の年代は20歳代未満が6%、20～30歳代が8%、40～50歳代は25%、60歳代22%、70歳代以上が39%であった。また、リピーターのほとんどが60歳代以上の高齢者であることから、現役を終え、「学ぶ」ことを続ける生涯学習の場として利用されていることが推測できる。

(資料編P.2 VII2019年度来館者アンケートから 参照)

③まちだ自由民権カレッジ同窓会アンケートから <回答者数：25人>

自由民権資料館の利用者の声として、まちだ自由民権カレッジ同窓会(※P9 Ⅲ活動実績と課題から③普及事業 ii 町田自由民権カレッジ 参照)に対し、アンケートを実施した。

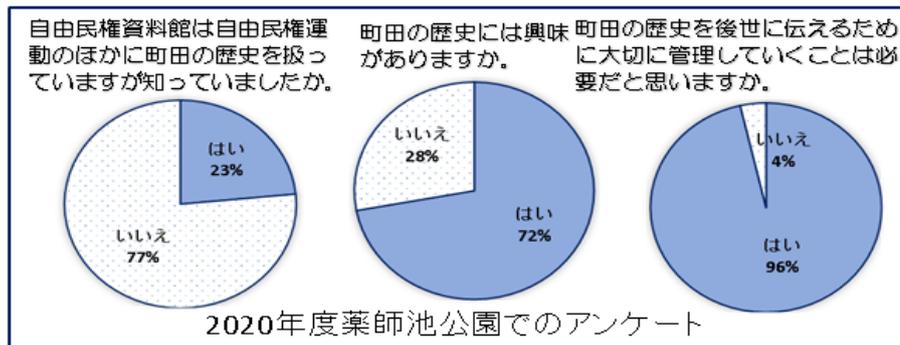
自由民権カレッジに参加しようと思ったきっかけは、定年後の余暇の活用や、歴史への興味、また、何か学びたいという意欲からという声が多かった。また、受講後の感想は「共に学習する仲間と出会えたことがよかった」や「主体的に関われば歴史は面白い」、「さらに深く学びたい」という回答が多かった。

(資料編P.12 まちだ自由民権カレッジ同窓会アンケート 参照)

④町田薬師池公園四季彩の杜におけるアンケートから <回答者数：307人>

2020年8月に町田薬師池公園四季彩の杜西園でアンケートを実施した。自由民権資料館を知っていると回答した人は59%。来館したことがあると回答した人は19%であった。また、自由民権資料館が町田の歴史を扱っていることを知っている人の割合は23%であり、認知度は低いものの、町田の歴史に興味があると回答した人は72%であったことから、歴史に関する市民の関心度は高い傾向にある。

(資料編P.15 町田薬師池公園四季彩の杜におけるアンケート 参照)

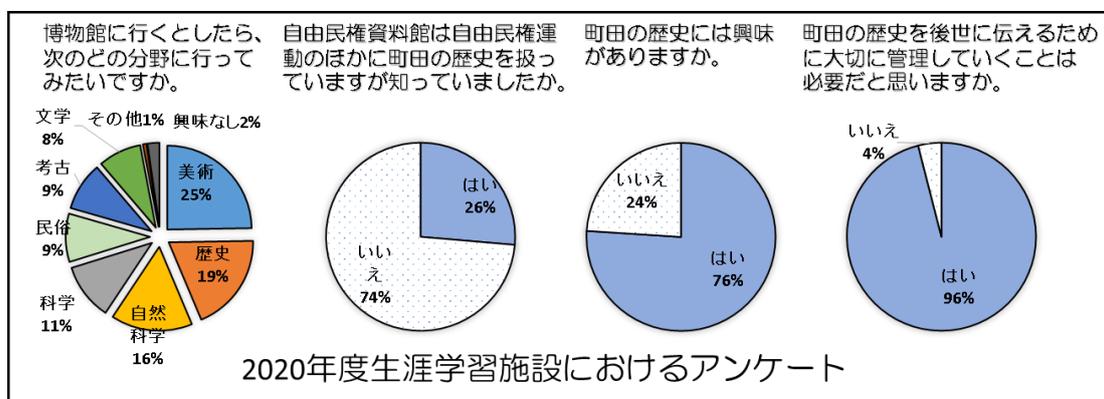


⑤生涯学習施設におけるアンケートから <回答者数：294人>

2020年10月に生涯学習センター・ポプリホール鶴川・金森図書館・忠生図書館・堺図書館の計5施設においてアンケートを実施した。自由民権資料館を知っていると回答した人は53%。来館したことがあると回答した人は23%であった。また、自由民権資料館が町田の歴史を扱っていることを知っている人の割合は26%であり、他質問についても薬師池公園四季彩の杜でのアンケートとほぼ同様の回答である。

なお、学習への意識が高い方々が通う生涯学習施設での聞き取りであることを踏まえ、行きたい博物館の分野を尋ねたところ、美術の25%に次いで歴史と答えた方が19%であった。

(資料編P.18 生涯学習施設におけるアンケート 参照)



2 自由民権資料館の課題

「(1) 事業の実績と課題」で抽出した課題と現状分析を踏まえ、自由民権資料館の課題を以下の3点に整理した。

- 自由民権運動の情報収集や調査研究に関して、日本有数の施設という強みをいかし、町田市のプロモーションにつなげる必要がある
- 町田市の歴史を扱う施設として認知度を高めることで、子どもたちにも親しみを持ってもらうとともに、市内に点在する歴史資源を活用した事業を展開する必要がある
- 生涯学習施設として、講座・展示等のあり方、内容、機会を多様化することで、多くの人が歴史の学びを享受できる環境を創る必要がある。

3 自由民権資料館の使命の再確認

自由民権資料館は、自由民権運動を市民とともに歴史的に位置づけ評価することで、個人が社会と主体的に向き合い社会を創造していくことを根幹とする「民主主義」の価値を改めて重視してきた。また、そのような主体性を前提にした自由民権運動の歴史を知り学び合う場を提供してきた。

一方で、市史編さん業務の後継として博物館とともに市域の歴史資料を保管し、市民に伝える役割を担ってきたが、博物館閉館により市内における歴史系博物館施設は自由民権資料館のみとなったことで、郷土資料館としての期待が高まっている。

開館からこれまで、様々な事業に取り組んできたことを踏まえ、改めて自由民権資料館の使命を確認する。

(1) 自由民権運動の意義を評価し発信する

- 自由民権運動の歴史的意義・今日的意義を、市民とともに歴史的に位置づけ、評価し、継承していくための拠点となる。
- 市内外の自由民権運動の史料の収集・保管、調査・研究をし、発信するとともに市域の歴史の特徴である自由民権運動を紹介することで、地域の魅力を高め、市民の誇りや愛着につなげる。
- 自由民権運動の研究情報センターとして、情報を集約、全国に発信し、研究をリードする。

(2) 町田市域の歴史を伝え郷土愛を育む

- 市民が市域や居住地域の歴史に触れることにより、町田市や居住地域に対する愛着を醸成する。
- 町田市域の歴史を残し伝えることで、町田市や市民の未来づくりに寄与する。

- 歴史を伝えるために欠かすことのできない歴史資料を収集・保管し、調査・研究し、成果を市民にわかりやすく発信する。

(3) 歴史の学びを通し個人と社会をつなぐ

- 歴史を知ること、学ぶこと、考えることの面白さ楽しさを多くの市民に伝えるため、また歴史分野における「知」への要望に応えるため、歴史に触れる機会と学びの場を提供する。
- 歴史を主体に学び発信できる環境を整える。
- 市民をはじめとする利用者が、個人と「社会」との関係をふまえた多様な「生涯学習」に触れられる支援をする。

4 自由民権資料館のめざす姿と事業の見直し

2018年3月に第3期町田市生涯学習審議会がまとめた「今後の生涯学習施策の進め方について一答申一」及び、2020年度第5期町田市生涯学習審議会がまとめた「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について一答申一」を踏まえ、前述で示した自由民権資料館の使命を継承し、今後のめざす姿を次の3点に整理した。

その「めざす姿」を実現するため事業の見直しを行い、重要性や効果を検証しながら、段階的に取り組むこととする。

(1) <自由民権運動の学びを現代（地域）に活かす>

研究成果を市内外に発信し、‘自由民権運動研究といえば町田’と呼ばれるようになることで、町の魅力向上の一翼を担う。

自由民権運動から現代・未来に提起できる問題を効果的に発信することで、自由民権運動の歴史的意義や自由民権資料館の存在意義を市内外に知ってもらうため、以下の取り組みを実施する。

- 【取組】①特別展の対象範囲を全国に広げ、誰もが知る歴史情報と関連づけることでさらに魅力が伝わる展示を取り入れる。
- ②自由民権運動への関心を高めるため、「自由」「平等」「人権」など現代社会において身近に感じられる問題も視野に入れた活動を展開する。
- ③研究成果を展示や刊行物として発信することのほか、デジタルコンテンツを作成するなど効果的な発信を行う。

(2) <町田市域の歴史を継承する>

市民の財産である市域の歴史を扱う施設としての責任を全うすることで、市民の誰もが知る施設になる。

博物館から民俗資料が移管されることを好機と捉え、歴史・民俗・考古の一体的活用をすすめることで、市域の歴史的魅力を効果的に伝えていくため、以下の取り組みを実施する。

- 【取組】①市域の郷土資料館であることを認知し、親しみを持ってもらうため、自由民権資料館に愛称をつける。
- ②考古・歴史・民俗資料の一体的な活用の一環として、歴史と自然が融合した環境が残る自由民権資料館周辺地域等の魅力を向上するため、「フィールドミュージアム」の形成をめざす。形成にあたっては、他部署・他団体との連携、市民との協働で行う。
- ③歴史的価値のある史料の散逸を防ぐため、市民への呼びかけや、史料整理の促進を図るための手法を検討し、強化する。
- ④時間や場所を選ばず気軽に歴史に触れることができるよう町田デジタルミュージアム・ホームページ・Twitter・動画配信をとおして積極的に情報発信をする
- ⑤市域の歴史研究の進展・蓄積を図るため収蔵史料のデジタル化、研究成果の情報発信をするとともに、「町田市史」の検証を行い「新町田市史」の編さんに向けた準備を進める。

(3) <歴史の学びを通して人と地域をつなぐ>

多様な担い手と協働し、歴史を学ぶ楽しさ・面白さを伝え、学びのコミュニティを創る。

歴史を学ぶ楽しさを分かち合いながら人と人、人と地域がつながる社会の形成を目指すため、以下の取り組みを実施する。

- 【取組】①多様な「知りたい」「学びたい」「調べたい」「考えたい」に corres 応するため、従来の講座に加えワークショップも視野に入れた講座の内容や開催方法を見直し、より多くの方が受講できるような体制を構築する。
- ②自由民権資料館で学んだ市民が、その知識や経験を地域で活かし、歴史の学びの輪を広げ、恒常的に継承されるような仕組みの構築を検討する。
- ③「子どもにも分かる」を意識し、「自由」「平等」「人権」の大切さや、地域の歴史について学んでもらうための教材を作成、発信する。作成にあたっては、小・中学校との連携を強化し、授業での活用可能なものとなるようにする。

Ⅲ 効率的・効果的な管理運営体制の検討

1 現状分析

(1) 2019年度 町田市行政評価シートから

2019年度における行政費用は62,147千円であり、そのうちの64.2%は人件費、また行政費用に対する利用者一人あたりのコストは7,688円であった。町田市における他の生涯学習施設及び文化施設の2019年度行政評価シートによる一人あたりのコストと比較すると、自由民権資料館は博物館に次いで、高い施設である。

町田市生涯学習・文化施設 利用者一人当たりのコスト比較
2019年度行政評価シートより

利用者一人当たりコスト		貸出者一人当たりコスト	
自由民権資料館	7,688円	中央図書館	1,618円
考古資料室	1,073円	さるびあ図書館	1,497円
町田市民文学館	2,340円	鶴川図書館	919円
フォトサロン	392円	金森図書館	580円
市民ホール	1,046円	忠生図書館	1,068円
鶴川緑の交流館	2,925円	木曾山崎図書館	1,010円
博物館	9,512円	堺図書館	2,336円
		鶴川駅前図書館	831円

(2) 博物館等の運営に関するアンケートから

2019年8月に近隣自治体と町田市同規人口自治体及び類似施設を対象に「博物館等の運営に関するアンケート」を実施した。調査は、近隣自治体（多摩26市、都内23区、神奈川県）及び町田市と同等規模の都市（人口30～50万人）、テーマ館などの類似施設の計128団体を対象に行い、回答は83団体（回収率64.8%）から得られた。

①回答のあった83団体のうち、歴史資料を展示する博物館施設を設置している団体は69団体であった。

②博物館施設を設置している69団体の管理運営手法は、

自治体が運営：56件

単独の事業体の指定管理者による運営：5件

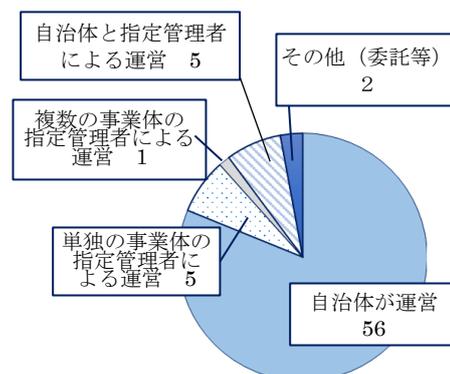
複数の事業体の指定管理者による運営：1件

自治体と指定管理者による運営：5件

その他（業務委託等）：2件

であり、81%が自治体による直営であった。

指定管理を導入している自治体は11%だったが単独の事業体での指定管理者であ



っても、施設貸出しを行っているなど、自由民権資料館と施設環境に違いがあることがわかった。

- ③人件費及び建物の減価償却費を除く費用に対する一人あたりのコストを同規模自治体（16館）と比較すると、平均値が1,556円であるのに対し、自由民権資料館は1,469円であった。（2018年度の経費で集計）
（資料P.2 Ⅷ同規模自治体利用者一人当たりのコスト比較参照）

2 管理運営体制の課題

行政サービスを向上していくためにも、施設の適正な維持管理や運営コストに見合う事業の提供など、効率的・効果的な運営を行う必要がある。

3 管理運営体制の見直し

（1）運営手法の検討

上記、現状分析及びアンケートの結果をふまえ、運営手法について次の4つの案を検討した。

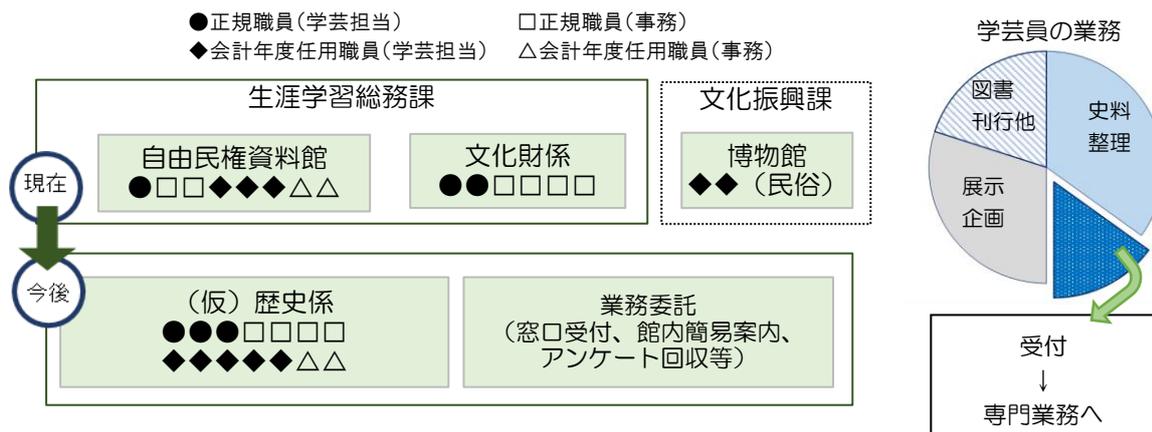
（案1）直営による運営	
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と密接な連携を図ることができる ・学芸担当職員の専門性が継承できる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・収益を意識した事業に柔軟に対応できない
（案2）一部業務委託化による運営	
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と密接な連携を図ることができる ・学芸担当職員の専門性が継承できる ・受付業務を委託した場合、学芸担当職員が本来担うべき業務に注力できる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・委託可能な業務が少ない
（案3）単独施設での指定管理の導入による運営	
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・常に収益を年頭に、柔軟かつスピード感をもって運営できる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・施設規模が小さく、独自収入が見込めないため、住民サービス向上等の効果が期待できない ・学芸担当職員の専門性の継承が難しい
（案4）複数施設での指定管理の導入による運営	
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば薬師池公園四季彩の杜と一体的な管理とした場合、連携した販わいの創出や広報など効果が期待できる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の運営に精通した事業者になるとは限らない ・学芸担当職員の専門性の継承が難しい

以上の検討内容を踏まえ、学芸担当職員の専門性が確実に継承でき、安定的な運営に繋がる、一部業務委託の導入が最も有効である。

(2) 検討結果を踏まえた見直し

①組織体制の見直しと民間活力の一部導入

正規職員と会計年度任用職員の役割をより明確にし、かつ、学芸担当職員と事務職員の業務の再分配を行う。また、学芸担当職員の専門的な業務時間を確保する体制を作るため、生涯学習総務課を再編成する。これらのことで、学芸担当職員の役割を強化し、考古・歴史・民俗資料の一体的な活用を促進するとともに、新たな市史の編さんに向けた準備を行う。



②史料の収集・整理・保管に関する基準の作成

- ・多大な時間を要する史料整理業務の効果的・効率的な手法を検討する。現在ある収蔵スペースを維持しながら大切な史料を今後も保存していけるよう、「史料の収集・整理・保管に関する基準」を新たに作成する。また、収蔵史料のデジタル化を進める。

- ・市の公文書を適切に後世まで伝え残せるよう、庁内の関係部署と調整をすすめながら、歴史的公文書の管理体制の望ましいあり方について検討する。

③新たな財源の検討

誰もが地域の歴史に気軽に触れる機会を確保するため、入館料は無料を継続するが、刊行する図書への広告掲載料をはじめとして新たな財源確保にむけた検討をする。

④新たな成果指標の設定

来館者数や展示・講座数など従来の成果指標に加え、めざす姿の実現度を確認するための新たな指標により、事業の検証を行う。

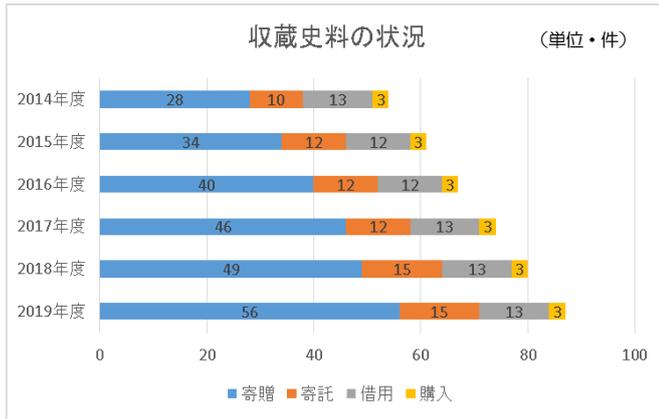
町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針

-資料編-

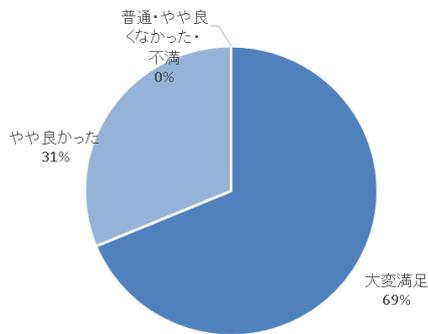
【 目 次 】

資料	1
Ⅰ 収集史料の状況	
Ⅱ 古文書講座の満足度・理由	
Ⅲ 町田自由民権カレッジ応募者・受講者の状況	
Ⅳ 刊行図書の種類	
Ⅴ Twitter リツイート・いいね数の推移	
Ⅵ 生涯学習に関する市民意識調査から	
Ⅶ 2019 年度来館者アンケートから	
Ⅷ 同規模自治体利用者一人当たりのコスト比較 「博物館の運営に関するアンケート」から同規模施設との比較	
参考資料	
「博物館の運営に関するアンケート」	3
博物館施設の状況	
博物館施設を設置していない自治体の状況	9
回答施設・機関一覧	11
「まちだ自由民権カレッジ同窓会アンケート」	12
「町田薬師池公園四季彩の杜におけるアンケート」	15
「生涯学習施設におけるアンケート」	18

I 収蔵史料の状況

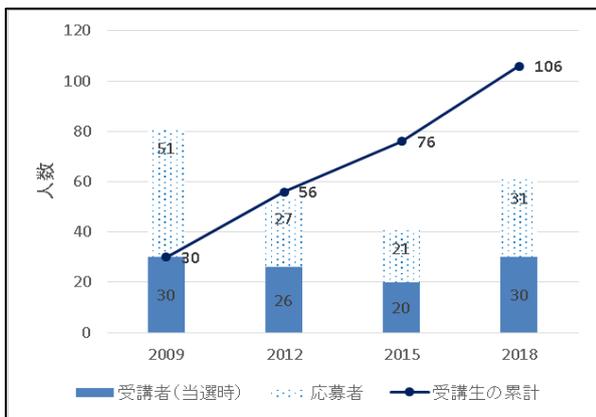


II 古文書講座の満足度・理由



満足度	理由
大変満足	何もわからない段階から少しは読めるようになったため。江戸期のことが楽しくわかったから
	古文書と日本史にさらに興味が出ました
	丁寧に解説していただきありがとうございました
	江戸時代の百姓の生活実態が良く解説をしていただいた。くずし字が多少読めるようになった
	これからも続けたいと思った
やや良かった	教え方は大変よかった。人柄がでている

III 町田自由民権カレッジ応募者・受講者の状況



民権カレッジ応募者・受講

IV 刊行図書の種類

書籍名・シリーズ名	自由民権		郷土史	対象	
	全国	武相	(市域)	一般	専門
紀要『自由民権』	○				○
『民権ボックス』		○	△	○	
『町田市史料集』			○		○
『町田市古文書目録』			○		○
『武相近代史料集』		○	△	△	○
『家永三郎文庫目録』	○				○
『武相自由民権史料集』		○			○
『わたしとわたしたち』	○	△	△	○	
『武相の女性・民権とキリスト教』		○		△	○
『図説 自由/民権』		○	△	○	
『増補 町田の歴史をたどる』			○	○	

V Twitter リツイート・いいね数の推移

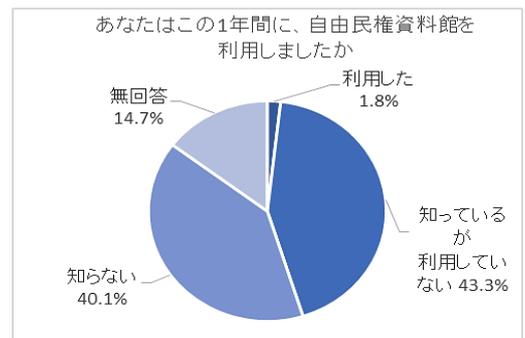


ツイート回数及びリツイート・いいね数の推移

VI 生涯学習に関する市民意識調査から

「あなたはこの1年に自由民権資料館を利用しましたか」

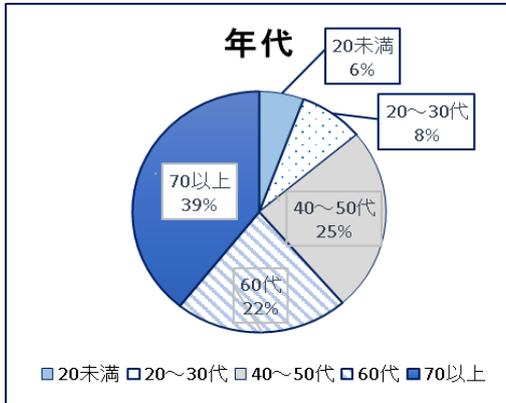
- 利用した 1.8%
- 知っているが利用していない 43.3%
- 知らない 40.1%
- 無回答 14.7%



Ⅶ 2019年度来館者アンケートから

来館者の年代

- ・20代未満 6%
- ・20～30代 8%
- ・40～50代 25%
- ・60代 22%
- ・70代以上 39%



Ⅷ 同規模自治体利用者一人当たりのコスト比較

「博物館の運営に関するアンケート」から
同規模施設との比較

自由民権資料館の建物が 911.15 m²であることから、延床面積 500 m²から 1500 m²の施設 16 館を抽出し、比較をした。

・人件費及び建物の減価償却費を除く費用に対する利用者一人あたりのコスト

自由民権資料館 1,469円

全体平均 1,556円

「博物館の運営に関するアンケート」から同規模施設との比較

施設・機関名	人口	(専有) 延床面積	入館者数		学 芸 員 数	展示事業				講 座 等 回 数	図 書 刊 行 数	経費	
			人数	順位		常 設 展	企 画 展	出 張 展 示	展 示 回 数			(円/人)	順位
平均	-	956	20,304	-	3.3	2	3	0.8	4	25	3	1,556	-
町田市立自由民権資料館	429,312	911	7,852	12	3.4	4	3	0	7	60	3	1,469	7
杉並区立郷土博物館	569,263	1,496	21,552	5	4.0	1	7	0	7	16	5	2,273	3
豊島区立郷土資料館	289,209	633	20,606	7	7.6	3	1	0	1	13	2	1,388	8
板橋区立郷土資料館	566,780	1,335	43,288	3	3.6	0	4	1	5	66	3	1,234	9
武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館	144,730	999	35,614	4	7.2	7	4	3	7	24	7	1,223	10
青梅市郷土博物館	133,738	786	17,416	8	5.0	0	4	0	4	3	3	266	16
調布市郷土博物館	235,086	841	7,642	13	7.6	1	2	1	3	98	17	3,025	2
小金井市文化財センター	121,385	966	2,756	17	0.8	0	2	1	3	5	0	1,146	11
日野市郷土資料館	185,443	509	21,282	6	4.4	7	3	5	8	24	0	-	-
五日市郷土館	80,954	908	6,494	14	0.0	0	2	0	2	1	1	1,027	12
檜原村郷土資料館	2,217	658	3,102	16	0.0	0	3	0	3	4	0	2,247	4
寒川文書館	48,278	844	13,396	9	0.0	0	2	0	2	6	5	573	13
愛川町郷土資料館	40,437	1,205	55,887	2	2.8	0	2	3	5	10	1	299	15
三春町自由民権記念館	16,863	1,460	8,268	11	3.0	1	3	0	3	52	1	2,034	5
川口市立文化財センター分館郷土資料館	603,901	618	3,429	15	1.8	1	2	0	2	1	1	4,561	1
富山市郷土博物館	415,904	947	66,324	1	3.8	2	5	0	5	2	2	502	14
宮崎市安井息軒記念館	402,991	1,132	10,253	10	1.0	1	3	0	3	36	1	1,630	6

※数値は2018年度実績による

※学芸員数は正規職員を1、嘱託職員を0.8で算出した人数

【参考資料】

博物館の運営に関するアンケート

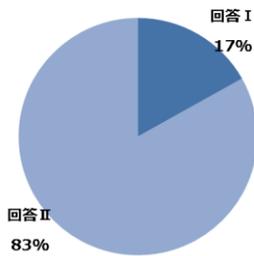
実施時期 2019年8月

対象 128団体 ・近隣自治体（多摩26市、都内23区、神奈川県）
 ・同規模都市（人口30~50万人）
 ・類似施設（テーマ館など）

回答数 83団体（回答率64.8%）

■回答率

アンケートにご回答いただいた施設・機関のうち「歴史資料を展示する博物館施設がある」と回答した自治体（回答Ⅱ）の回答（率）は、69件（83%）であった。



回答Ⅰ：歴史資料を展示する博物館施設がない 14件
 回答Ⅱ：歴史資料を展示する博物館施設がある 69件

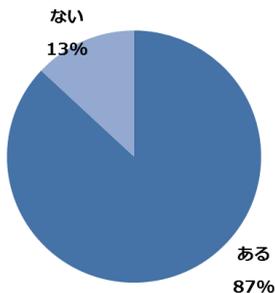
博物館施設の状況

回答Ⅱ-問1

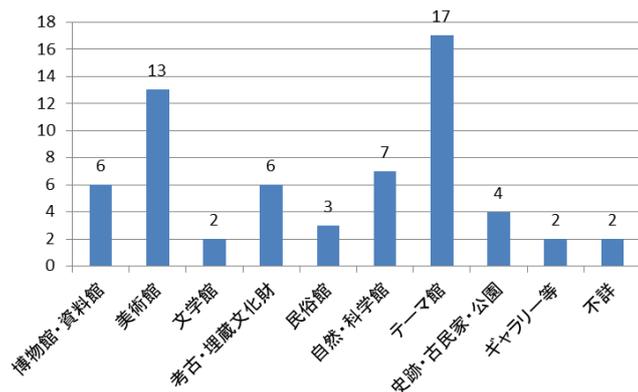
貴館以外に同自治体が運営している他の博物館施設がある場合、その役割分担について教えてください。

自由民権資料館の場合

町田市立国際版画美術館（美術）、町田市民文学館（文学）、町田市立考古資料室（民俗）



ある	40件
ない	6件



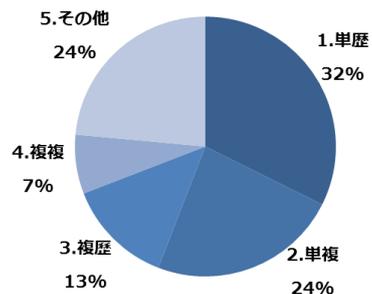
回答Ⅱ-問2-1

貴館の施設についてお尋ねします。

1. 単独施設であり、歴史を扱う施設である。
2. 単独施設であり、美術・歴史・民俗・文学など様々なジャンルを取り扱う施設である。
3. 複合施設として、他の公共施設とひとつの建物に同居している歴史を扱う施設である。
4. 複合施設として、他の公共施設とひとつの建物に同居していて、かつ美術・歴史・民俗・文学など様々なジャンルを取り扱う施設である。
5. その他

自由民権資料館の場合

1. 単独施設であり、歴史を扱う施設である。



1.単歴	22件
2.単複	16件
3.複歴	9件
4.複複	5件
5.その他	16件

回答Ⅱ-問2-2

複合施設の場合、他の公共施設とは

回答例

総合文化センター（多目的ホール、美術ホール、文化教室等）、福祉保健部健康課、子ども家庭部児童青少年課子ども家庭支援センター、社会福祉協議会、理科教育センター、埋蔵文化財センター、学校サポートセンター、保健所、福祉センター、子ども発達支援センター、保育園、プール、貸し集会室、バンケット、ホール、レストラン、区役所組織、図書館 など

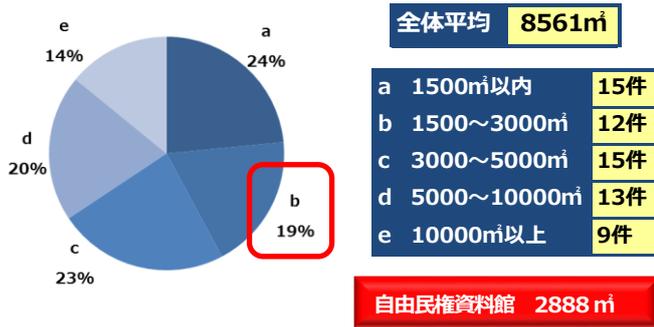
回答例

最少規模：[42] 小田原市郷土文化館 83㎡
 最大規模：[52] 神奈川県立歴史博物館 10565㎡
 自由民権資料館類似規模：
 [33] 五田市郷土館 908㎡ [58] 富山市郷土博物館 947㎡
 [22] 小金井市文化財センター 966㎡
 [21] 調布市郷土博物館 841㎡
 [18] 武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館 999㎡

回答Ⅱ-問3

貴館の施設の概要を教えてください。

1. 敷地面積



回答例

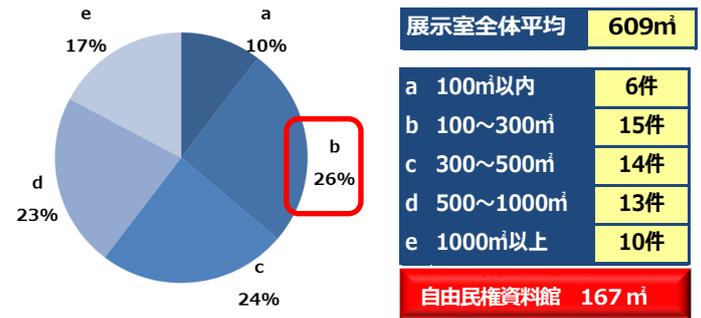
最少規模：[56] 川口市立文化財センター分館郷土資料館 364㎡
 最大規模：[20] 府中市郷土の森博物館 137000㎡

2. 延床面積

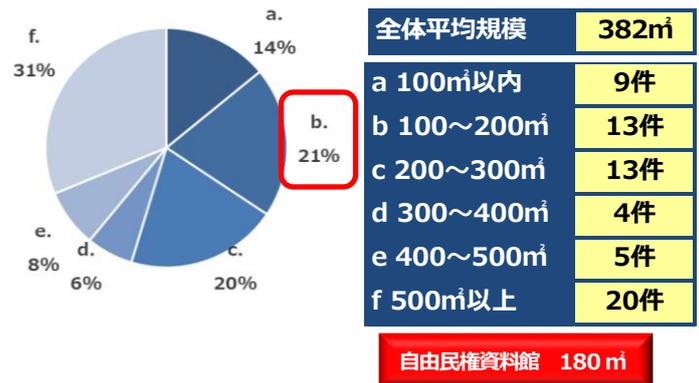


3. 展示室床面積

【展示室】



4. 書庫・収蔵庫床面積



5. その他付帯施設

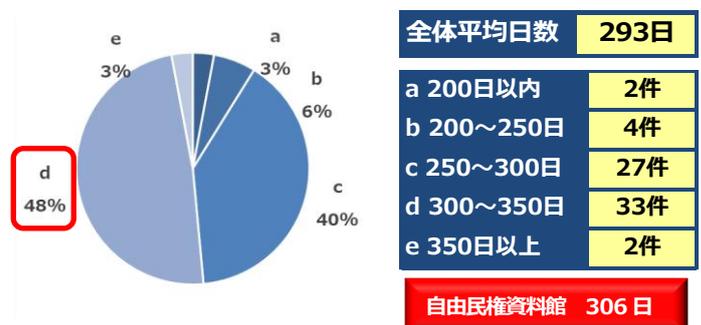
回答例

図書資料室、国指定史跡、茶室、事務室・研究室、視聴覚室・ビデオブース・映像コーナー、撮影室、文化財保存室、民具保存館、資料閲覧室、整理室・荷解室、補修作業室、機械室、車庫、くん蒸庫、郷土情報室、プラネタリウム、伝承スタジオ、市民ギャラリー、図書館、体験学習室、カフェ・休憩所、屋外展示場、分館 など

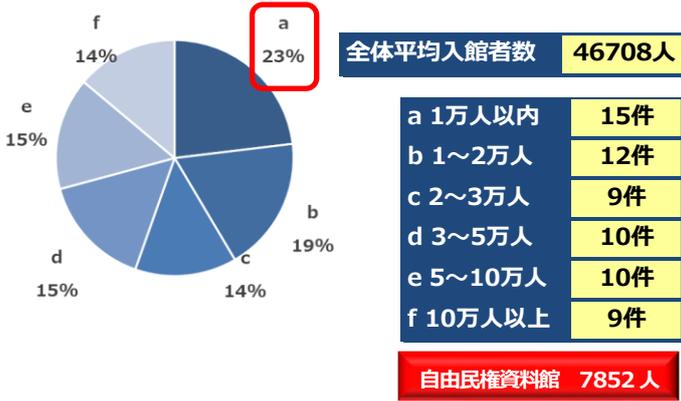
回答Ⅱ-問4

2018 年度に貴館が実施した事業の実績について教えてください。

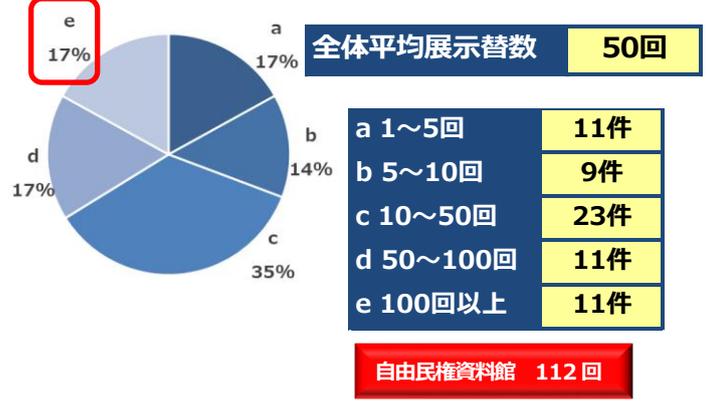
1. 開館日数



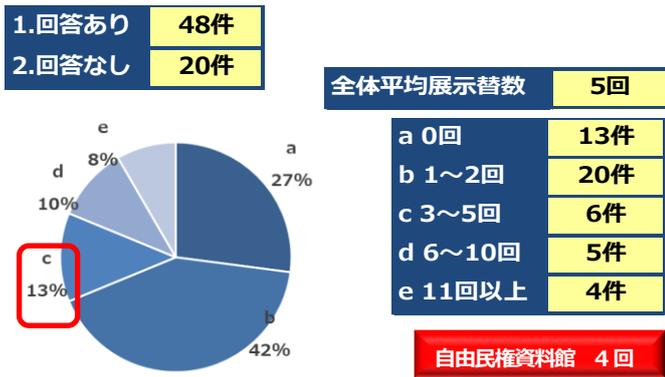
2. 入館者数



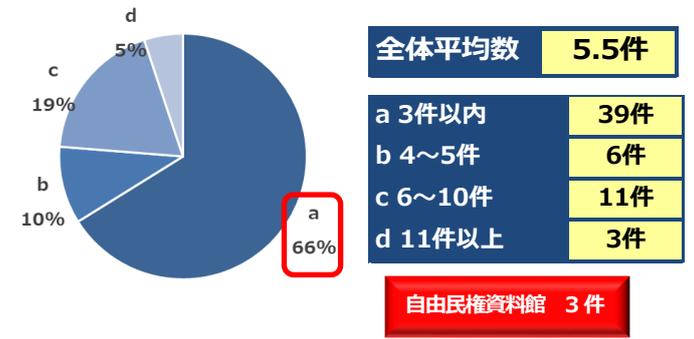
6. 講演会・講座・イベント開催数



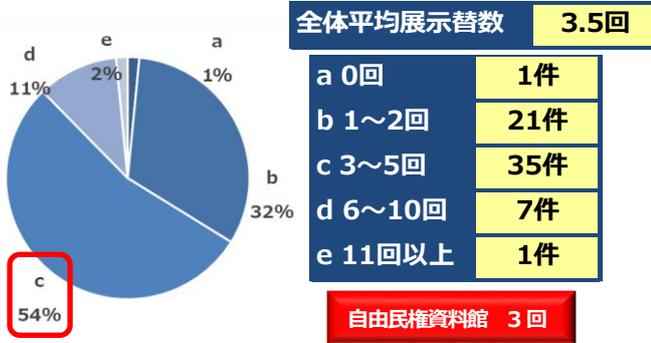
3 常設展展示替数 (部分入替含)



7. 図録、紀要、年報等の発行数



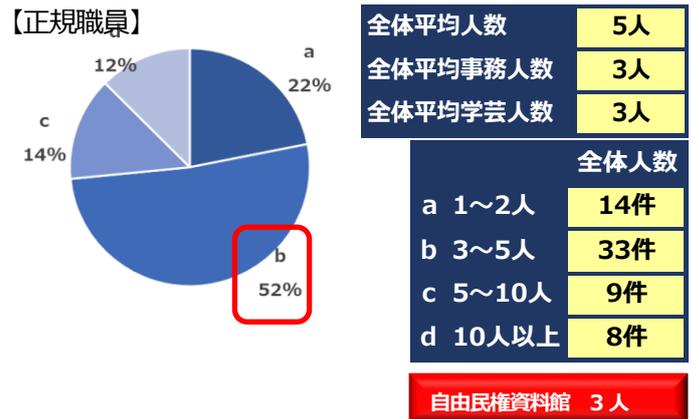
4. 企画展展示替数 (ミニ展示含)



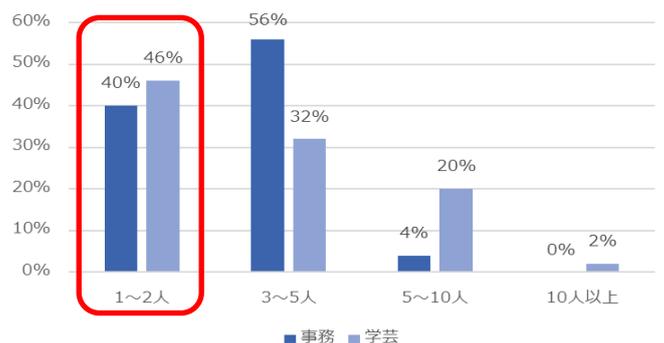
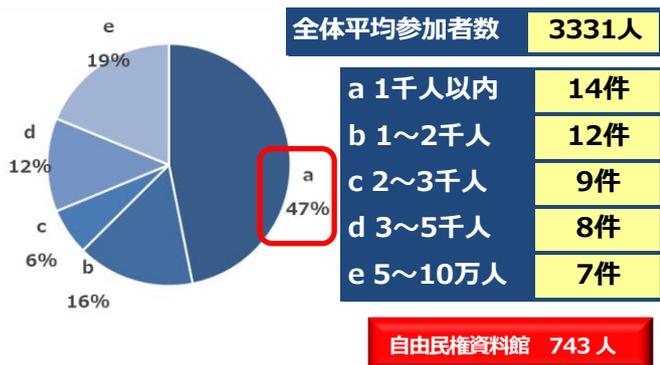
回答Ⅱ-問5

貴館の職員構成を教えてください。

※事務職、学芸員等の職種区分がある場合には、その内訳もご記入下さい。



5. 講演会・講座・イベント参加者数



	事務職	学芸職
1~2人	21件	20件
3~5人	30件	14件
5~10人	2件	9件
10人以上	0件	1件

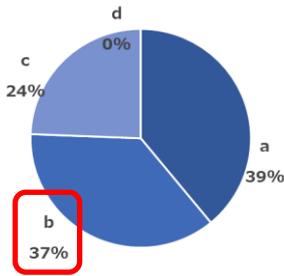
自由民権資料館 事務 2人 学芸 1人



	事務職	学芸職
1~2人	19件	61件
3~5人	4件	31件
5~10人	4件	8件
10人以上	1件	0件

自由民権資料館 事務(学芸兼務) 3人

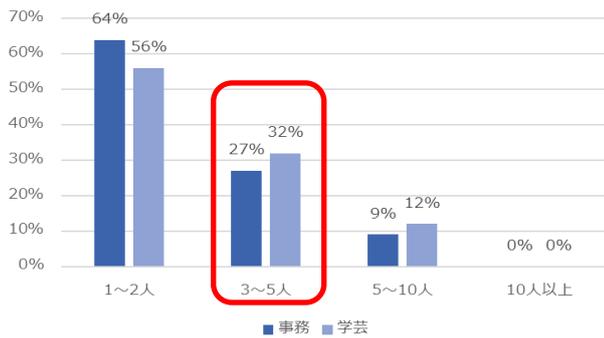
【嘱託職員】



全体平均人数	3.3人
全体平均事務人数	2.5人
全体平均学芸人数	2.8人

全体人数	
a 1~2人	16件
b 3~5人	15件
c 5~10人	10件
d 10人以上	0件

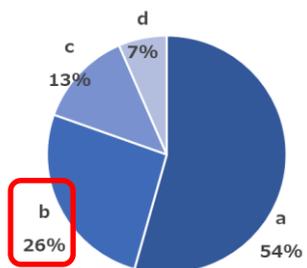
自由民権資料館 3人



	事務職	学芸職
1~2人	14件	14件
3~5人	6件	8件
5~10人	2件	3件
10人以上	0件	0件

自由民権資料館 学芸 3人

【臨時職員】



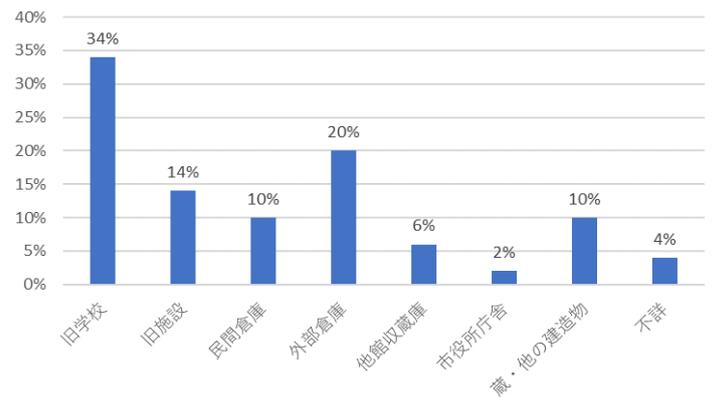
全体平均人数	4.3人
全体平均事務人数	4.4人
全体平均学芸人数	2.3人

全体人数	
a 1~2人	25件
b 3~5人	12件
c 5~10人	6件
d 10人以上	3件

自由民権資料館 3人

回答Ⅱ-問6

外部収蔵庫で保管している資料がある館へお尋ねします。外部収蔵庫での保管状況を教えてください。



自由民権資料館の場合

■書籍等一部を旧忠生六小に保管している。空調設備なし

各施設の回答(抜粋)

[1] 中央区立郷土天文館(タイムドーム明石)

■空調設備が整った民間倉庫に保管委託している。なお、美術資料については、個別空調による管理を行なっている。館内収蔵庫は、24時間空調設備が整っていないため、貴重資料のほとんどが外部倉庫での保管・管理となっている。

[2] 文京ふるさと歴史館

■文化財(都史跡)蔵2棟、小学校内の倉庫、郊外施設にて主に民具を収蔵。いずれも空調・消火設備無し。

[15] 江戸川区郷土資料室

■中学校の一部借りて資料を保管している。空調が整っておらず、収蔵庫も満杯になっている。

[16] 八王子市郷土資料館

■外部収蔵庫(埋蔵文化財整理室)で土器及び考古資料を保管している。収蔵庫は空調設備が整っている。/外部収蔵庫(稲荷山行政資料保管等施設)で歴史及び民俗資料を保管している。一部の収蔵庫は空調設備が整っている。

[20] 府中市郷土の森博物館

■園内の復元建築物ならびにプレハブ収蔵庫にも分散して配置している。

[21] 調布市郷土博物館

■倉庫を扱っている市内業者から資料保管庫として専用に部屋を借上げ、主に大きな資料を保管している。

[27] 東大和市立郷土博物館

■市内の中学校の敷地内にある生活文化財保存庫に民俗資料を保管している。くん蒸を年1回行い、清掃を年3回シルバー人材センターに委託している。

[39] 相模原市立博物館

■小学校の旧給食センターや所管施設などで保管しているが、空調設備が整っていないため、おもに書籍と石（磔）を所蔵している。

[41] 藤沢市文書館

■定温定湿の民間倉庫に保管（保管業務委託）

[48] 海老名市立郷土資料館海老名市温故館

■民具の一部は、市所有の蔵（近世建物）に保管。空調はなし。

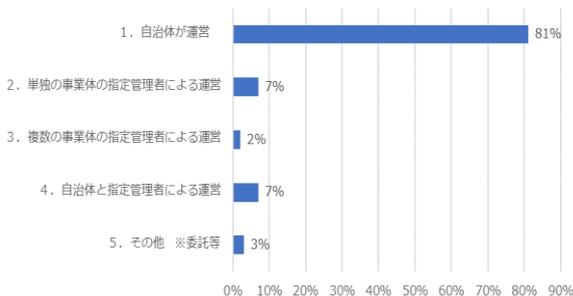
[60] 長野市立博物館

■旧合井町村の収蔵室と廃校になった旧小学校で歴史・民俗・考古資料を収蔵、老朽化のため縮小・集約する予定

回答Ⅱ-問7

貴館はどのような運営手法をとっていますか。

1. 自治体が運営	54件
2. 単独の事業体の指定管理者による運営	5件
3. 複数の事業体の指定管理者による運営	1件
4. 自治体と指定管理者による運営	5件
5. その他 ※委託等	2件



その他の回答

[1] 中央区立郷土天文館（タイムドーム明石）

■プラネタリウムの投影業務と天文館の受付業務を業務委託している

[39] 相模原市立博物館

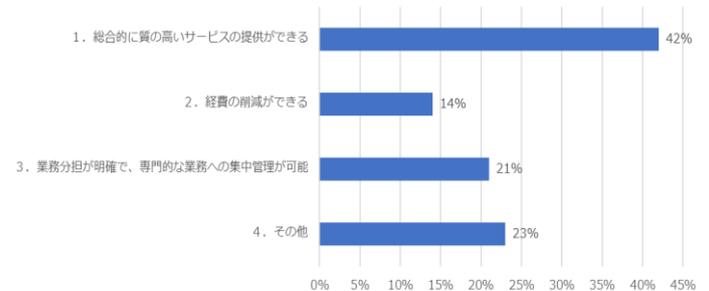
■自治体と一部委託による運営

回答Ⅱ-問8

貴館の運営手法のメリット・デメリットについて教えてください。

【メリット】

1. 総合的に質の高いサービスの提供ができる	40件
2. 経費の削減ができる	14件
3. 業務分担が明確で、専門的な業務への集中管理が可能	20件
4. その他	22件



その他の回答

■直営で専門職を配置することにより、安定的かつ計画的に専門職員を育成・配置することができる。

■安定して長期的な事業を行える

■継続的な運営ができる。

■調査・研究等の継続性

■継続的な収集方針が維持できる

■さまざまな業務展開ができ、来館者との距離が近くなる。職員が緊張感を持って職務に専念できる。館運営に本当に必要かつ、来館者に還元するために何ができるかを常に考えることにより、職員1人1人がモチベーションを上げて業務をすることが可能である。

■小規模な地域博物館であり、館の敷地を重要文化財大場家住宅及び表門を保有・管理する（一財）大場代官屋敷保存会から使用貸借していることを含め、設立目的に鑑みて直営以外考えにくい。直営ゆえに、区の歴史研究、文化財保存等に取り組みやすい。

■地域との密接な連携ができる。

■文化財保護事業と館運営の一体化による効率化。

■市の直営のため、市の施策と連動した事業が行える

■自治体の予算によって運営しているため入館無料等が出来る。安定した予算。

■専門職員での管理が可能で町内の学校施設との連携が容易である

■公共性の維持がはかれる。

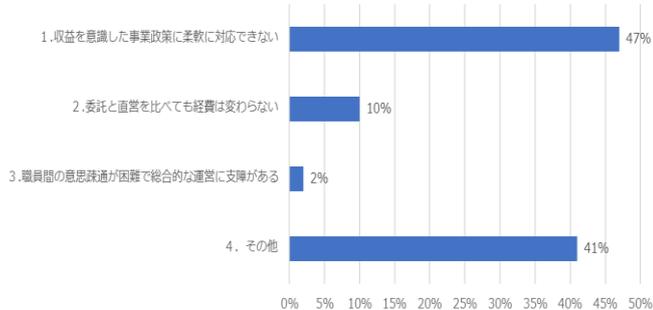
■予算面で柔軟に対応できる。スピードが早い。

■市のインフラや人材を生かした協力体制が組める。個人や他機関からの信用がある。

■集客率だけを求めない、地域ならではの展示テーマを選択できる。

【デメリット】

1.収益を意識した事業政策に柔軟に対応できない	29件
2.委託と直営を比べても経費は変わらない	6件
3.職員間の意思疎通が困難で総合的な運営に支障がある	1件
4. その他	25件



その他の回答

- 人手不足、十分な人員が配置されていない
- 経費が少ない。緊縮財政の状況の中で、予算獲得が厳しい。
- 学芸員も一般事務職扱いのため、異動により専門的な業務の継続に支障がでる場合がある。
- 窓口まで直営であるため、机上事務に支障をきたす場合がある。
- 変則勤務であるため、シフト調整が難しい
- 本市に学芸員専門の正規職員の採用枠がないため、博物館活動が不安定となること。
- 指定管理期間が3年ないし5年と短く、腰を据えた運営が難しい。人件費削減により、専門性を持った有資格者（学芸員）を雇い止める例もある。人を宝だと思っていない指定管理者も実際に存在するようだが、当館は1人1人の能力を十分に認め、適材適所での職員の雇用を実施している。
- 小規模施設であり、設立目的から入館料はとっていないが、維持管理費の一部を受益者負担してもらうことも検討すべきかもしれない。（外部講師招聘の講座は、受講料徴収あり）
- 人件費の抑制などコスト削減の面から、短期間で指定管理者の職員が交代し、ノウハウの蓄積を妨げることとなった。
- 常に収益を念頭に事業を実施
- 事業のバランス配分が難しくなる。
- 収益性は低い。実際にはこの収入とこの位置とで受託する企業や団体はないだろう。

回答Ⅱ-問9

今後、貴館の運営形態や事業形態あるいは存廃などについて変更される予定はありますか。変更が決定している場合はその時期、検討中（または検討の予定）等ありましたらご記入ください。

回答

- [1] 中央区立郷土天文館（タイムドーム明石）
- 郷土資料の展示については、令和4年度中に開設する「本の森ちゅうおう」（図書館）の中に移転する予定。プラネタリウムについては、未定。
- [16] 八王子市郷土資料館
- 八王子医療刑務所跡地に、公園と複合機能施設からなる「八王子駅南口集いの拠点」を整備する（時期未定）。その複合機能施設の中に「(仮称) 歴史・郷土ミュージアム」を整備する。八王子駅南口集いの拠点における、整備・運営の手法について、官民連携事業手法（PFI 事業及び DBO 方式）やその他の手法について検討する（令和2年度末まで）。
- [17] 立川市歴史民俗資料館
- 立川市公共施設再編個別計画にて検討予定。
- [22] 小金井市文化財センター
- 運営形態や事業形態について、本格的な議論はなされていない。ただし、本館は、昭和初期に建設された木造建築物を展示・保管施設に転用したため、資料の保管状況や施設の耐久性・防火性などの様々な面で限界にきている。現状、歴史資料の保管を第一に、適切な施設への資料の移動を模索している。今後は、博物館施設の建設を含めて、新たな展示・保管施設の必要性を検討していくこととなる。
- [28] 清瀬市郷土博物館
- 現在のところはないが、今後全庁的な組織改編が検討される予定である。
- [42] 小田原市郷土文化館
- 施設の老朽化等により、博物館の整備を検討中。平成29年に「小田原市博物館基本構想」を策定。
- [43] 茅ヶ崎市文化資料館
- (仮称) 茅ヶ崎市歴史文化交流館が令和4年度に開館予定（茅ヶ崎市文化資料館は令和2年度末に閉館予定）。
- [45] 秦野市立土手古墳展示館
- 考古専門の博物館から人文系の博物館へ令和2年に移行することとなっています。展示設計等は直営です。
- [57] 松戸市立博物館
- 十数年前に指定管理の話があったがそれ以降話題になっていない。予定はありません。
- [63] 尼崎市立地域研究史料館
- 令和2年度に市立文化財収蔵庫と統合して歴史館機能（新博物館）整備予定
- [68] 宮崎市安井息軒記念館
- 本年（2019年）は指定管理の公募・剪定年となっていますが、館自体は現状のまま存続します。

博物館施設を設置していない自治体の状況

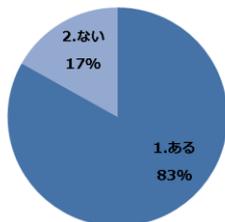
■ 回答率

アンケートにご回答いただいた施設・機関のうち、「歴史資料を展示する博物館施設がない」と回答した自治体（回答Ⅰ）の回答（率）は、14件（17%）であった。

回答Ⅰ - 問1

貴自治体において、歴史資料を展示している博物館等がありますか。

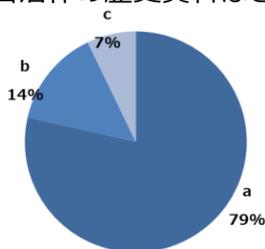
1.ある 2.ない



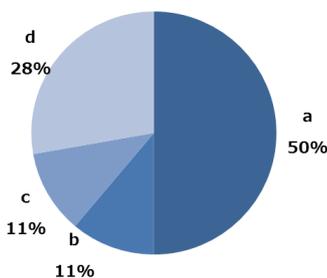
1.ある	69件	→問Ⅱへ回答
2.ない	14件	

回答Ⅰ - 問2

問1で「2.ない」と回答した自治体にお尋ねします。貴自治体の歴史資料はどのように公開していますか。



a.何らかの方法で公開	11件
b.基本的には公開していない	2件
c.不詳	1件



a.類縁施設においてイベント時などに展示公開	9件
b.写真やデジタルシステムにおいて公開	2件
c.体験学習や教育現場などにおいて活用・公開	2件
d.不詳	5件

※重複回答あり。

施設・機関の回答例

[70] 三鷹市スポーツと文化部生涯学習課

■考古資料については、一部を遺跡展示室にて公開。民俗資料については、大沢の里水車経営農家及び市内中学校の空き教室にて公開。古文書資料については、市民からの要望に応じて、デジタルデータを公開。美術資料については、市民センター内に一部掲示及び文化施設にて公開。

[71] 狛江市教育委員会

■東京文化財ウィーク期間中に、期間を定めて展示を行ったり、考古資料・民俗資料の一部については、体験学習や出前講座などで実物を活用・公開している。

[73] 伊勢原市教育委員会

■市主催の展示会等や地域や民間主催のイベント時でも公開しています。所蔵資料の見学希望については、個別対応。

[76] 二宮町教育委員会

■①町のホームページ上に作成した「バーチャル郷土館」にて、写真を公開。②生涯学習センターに設置したガラスケースにて、ミニ展示を行う。（令和元年度は「ものが語る二宮のくらし」全5回）[79] 山北町教育委員会

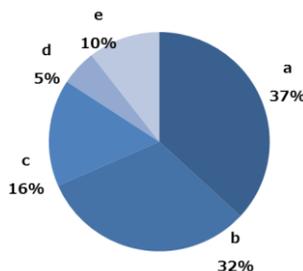
■町立生涯学習センターの一角に常設展示コーナーを設け公開しています。

[78] 松田町教育委員会

■町民文化センター（町立公民館）内保管庫及び図書館にて保管、公開など

回答Ⅰ - 問3

保有している資料はどのように保管されていますか。



a.類縁機関にて保管	7件
b.倉庫などで保管	6件
c.廃校などで保管	3件
d.その他	1件
e.不詳	2件

施設・機関の回答例

[70] 三鷹市スポーツと文化部生涯学習課

■考古資料については、遺跡展示室及び倉庫内に保管。民俗資料については、大沢の里水車経営農家及び市内中学校に保管。古文書資料、美術資料については、図書館資料室及びトランクルームに保管。

[71] 狛江市教育委員会

■考古資料・民俗資料については、廃校となっている校舎の一部を利用して保管している。

[73] 伊勢原市教育委員会

■設備が整った専用施設は保有していないが、民間から賃貸している保管庫、中学校の余裕教室等、分散して保管。

[78] 松田町教育委員会

■町立公民館内保管庫及び図書館にて保管、公開

[77] 大井町教育委員会

■生涯学習センター内で保存をしている。

[80] 開成町教育委員会

■郷土資料室と民具倉庫に保管しています。

[81] 湯河原町教育委員会

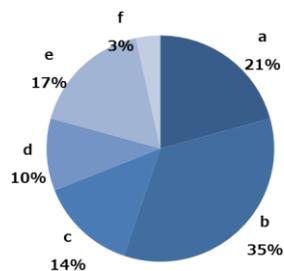
■ガラスケース等に保管して展示

[83] 倉敷市総務局

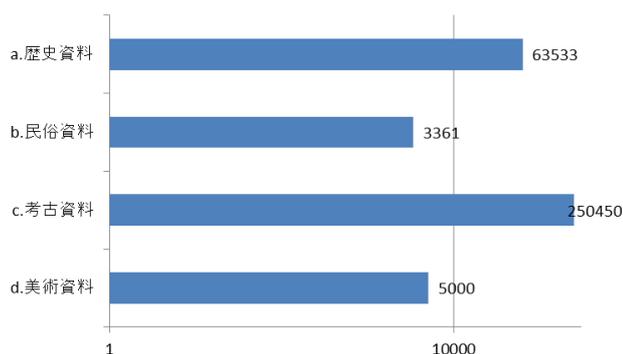
■基本的には寄贈を受けたときに入っていたものの箱か中性紙の文書箱に入れて収蔵庫で保管。収蔵庫は毎日湿度管理を行っている。収蔵庫の炭酸ガス燻蒸と虫害モニタリング調査を年1回行っている。資料は順次目録を作成している。

回答 I - 問 4

貴自治体での所蔵資料の内容とその内訳についてお尋ねします。ジャンルごとの所蔵資料点数を教えてください。



a. 歴史資料	6件
b. 民俗資料	10件
c. 考古資料	4件
d. 美術資料	3件
e. 把握していない	5件
f. 回答なし	1件



分類	平均
a. 歴史資料	63533点
b. 民俗資料	3361点
c. 考古資料	250450点
d. 美術資料	5000点

施設・機関の回答

- [70] 三鷹市スポーツと文化部生涯学習課
 ■ 考古資料約 100 万点、文芸・美術資料約 2000 点、民俗資料約 4600 点、古文書資料約 1700 点
- [71] 狛江市教育委員会
 ■ 歴史資料 10000 点以上、民俗資料（民具）約 1500 点、考古資料 テンバコ約 1200 箱
- [72] 三浦市教育委員会
 ■ 歴史資料 100 点、民俗資料 500 点
- [73] 伊勢原市教育委員会
 ■ 今の時点では、未整理、未分類の資料もあり、総体としてのジャンル別点数については、把握できていません。
- [74] 座間市教育委員会
 ■ 民俗資料 1414 点
- [76] 二宮町教育委員会
 ■ 文献・写真・考古資料など所蔵はしておりますが、詳細な点数は把握しておりません。民俗資料約 2000 点
- [77] 大井町教育委員会
 ■ 現時点では、所蔵資料点数は把握していない
- [78] 松田町教育委員会
 ■ 出土品 約 100 点、民俗資料 約 100 点
- [79] 山北町教育委員会
 ■ 文献資料 3400 点、考古資料 500 点、民俗資料 500 点
- [80] 開成町教育委員会
 ■ 歴史資料未整理が多く不明、民俗資料約 1000 点
- [81] 湯河原町教育委員会
 ■ 不明
- [82] 伊勢市教育委員会
 ■ 歴史資料 66000 点 民俗資料 4000 点 美術資料 1000 点
- [83] 倉敷市総務局
 ■ 歴史資料（歴史公文書・古文書・写真等）約 30 万点（歴史資料整備室保管）、民俗資料 約 1 万 8 千点（倉敷市教委文化財保護課保管）、美術資料 約 1 万 2 千点（倉敷市立美術館保管）

回答施設・機関一覧

町田市近隣自治体：東京都内

- [1]中央区立郷土天文館（タイムドーム明石）
- [2]文京ふるさと歴史館
- [3]台東区立中央図書館
- [4]すみだ郷土文化資料館
- [5]江東区中川船番所資料館
- [6]品川区立品川歴史館
- [7]目黒区めぐろ歴史資料館
- [8]世田谷区立郷土資料館
- [9]杉並区立郷土博物館
- [10]豊島区立郷土資料館
- [11]北区飛鳥山博物館
- [12]板橋区立郷土資料館
- [13]練馬区立石神井公園ふるさと文化館
- [14]足立区立郷土博物館
- [15]江戸川区郷土資料室
- [16]八王子市郷土資料館
- [17]立川市歴史民俗資料館
- [18]武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館
- [19]青梅市郷土博物館
- [20]府中市郷土の森博物館
- [21]調布市郷土博物館
- [22]小金井市文化財センター
- [23]日野市郷土資料館
- [24]東村山ふるさと歴史館
- [25]くにたち郷土文化館
- [26]福生市郷土資料室
- [27]東大和市立郷土博物館
- [28]清瀬市郷土博物館
- [29]東久留米市郷土資料室
- [30]武蔵村山市立歴史民俗資料館
- [31]旧多摩聖蹟記念館
- [32]羽村市郷土博物館
- [33]五日市郷土館
- [34]瑞穂町郷土資料館
- [35]日の出町小さな蔵の資料館
- [36]檜原村郷土資料館
- [37]水と緑のふれあい館 尼崎市立地域研究史料館

町田市近隣自治体：神奈川県

- [38]川崎市公文書館
- [39]相模原市立博物館
- [40]横須賀市自然・人文博物館
- [41]藤沢市文書館
- [42]小田原市郷土文化館
- [43]茅ヶ崎市文化資料館
- [44]池子遺跡群資料館
- [45]秦野市立桜土手古墳展示館
- [46]あつぎ郷土博物館

- [47]つる舞の里歴史資料館
- [48]海老名市立郷土資料館 海老名市温故館
- [49]寒川文書館
- [50]大磯町郷土資料館
- [51]愛川町郷土資料館
- [52]神奈川県立歴史博物館
- [53]神奈川県立金沢文庫

類似施設または町田市同規模自治体

- [54]三春町歴史民俗資料館・自由民権記念館
- [55]川越市立博物館
- [56]川口市立文化財センター分館郷土資料館
- [57]松戸市立博物館
- [58]富山市郷土博物館
- [59]金沢市立玉川図書館近世史料館
- [60]長野市立博物館
- [61]岐阜市歴史博物館
- [62]沼津市明治史料館
- [63]尼崎市立地域研究史料館
- [64]西宮市立郷土資料館
- [65]坂の上の雲ミュージアム
- [66]松山市立子規記念博物館
- [67]高知市立自由民権記念館
- [68]宮崎市安井息軒記念館
- [69]鹿児島市立ふるさと考古歴史館

「歴史資料を展示している博物館等がない」と回答された自治体

- [70]三鷹市スポーツと文化部生涯学習課
- [71]狛江市社会教育課文化財担当
- [72]三浦市文化スポーツ課
- [73]伊勢原市教育部教育総務課
- [74]座間市市史文化財担当
- [75]葉山しおさい公園・博物館
- [76]二宮町教育部生涯学習課生涯・スポーツ班
- [77]大井町生涯学習課
- [78]松田町教育課生涯学習係
- [79]山北町生涯学習課
- [80]開成町教育総務課
- [81]湯河原町社会教育課
- [82]伊勢市文化振興課
- [83]倉敷市総務部総務課歴史資料整備

まちだ自由民権カレッジ同窓会アンケート

自由民権資料館利用者の声として、まちだ自由民権カレッジ同窓会会員に対して、アンケートを実施しました。

期間：2020年8月1日～8日

対象会員数：39名

回答数：25件（回収率64%）

質問 1：資料館に足を運ばれたきっかけは何でしたか

- ◆民権カレッジに応募したこと（4名）
- ◆古文書講座に参加したこと（4名）
- ◆自宅に近く、その名前と内容に興味があった
- ◆家から薬師池公園に行く道沿いに、緑に囲まれた白い建物があり、好奇心から覗いてみたのが初めて
- ◆知人が企画展などの紹介をしてくれ、身近に感じていた
- ◆町田市に勤務先があり、資料館の存在を承知しており、自由民権運動に以前から関心を持っていたから
- ◆中学校で習った以来、50年間 関心が無かった自由民権運動を知りたいと思ったから
- ◆町田市の歴史を学ぶ上で「何が良いか」を考えたときに「民権運動」と思った
- ◆明治期の社会の一端でも知りたいとの理由で来館した
- ◆子育てが落ち着いてきた頃、漠然と、身近なテーマで学びたいと思うようになりました。町田市史を読んでもみましたが、分からないことばかりで、地元史をもっと知りたいと思ったのがきっかけです
- ◆博物館や美術館めぐりが好きで近辺のミュージアム巡りをしていた頃、市の広報で資料館が開館したことを知り、どんな資料館ができたのかとワクワクしながら訪れた憶えがあります。それから長い付き合いになりました
- ◆自由民権活動の知識を学ぶため。（特に常設展、企画展等。学芸員を中心とした企画展等は素晴らしい内容である
- ◆鶴川地区という場所柄もあってわざわざ民権資料館を訪れることは殆んど無かった。「自由民権」に関心が無かった訳でもないのに1～2回館内見学した程度だった。その意味で民権カレッジの募集を知り、幸いにも受講出来たことは大変有り難かった
- ◆1986年11月に開催された「草の根の自由民権展」から今日まで対話を楽しんでいる

質問 2-1：自由民権カレッジに参加しようと思ったきっかけは何でしたか

- ◆定年退職後の余暇の活用（5名）
- ◆何かを学び、視野を広げたい（3名）
- ◆近代史・自由民権運動に興味があった（6名）
- ◆町田の歴史に興味を持った（5名）
- ◆3年間という長いスパンで、きちんとしたカリキュラムの下で学べると思ったから（4名）
- ◆「憶える歴史」から「考える歴史」を目指す「自由民権カレッジ」の趣旨に賛同したから（2名）
- ◆自らのテーマに基づき調査研究し、卒論発表することに大きな意義を見出していたから（2名）
- ◆卒論プロセス、テーマ決定、調査した物の整理・文章化等を指導して頂きたいため

質問 2-2：受講してみてどうでしたか

- ◆3年間体系的に学習でき、同好の方と学習を共にすすめて行けたのは、大変有難かった。感謝です
 - ◆いろいろと苦労したが、学芸員等の親切な指導・支援を受け、楽しく学べました◆自分なりに「論文？」をなんとか提出出来、「頑張った」と思え、次も挑戦したいと思った。きっかけが出来た。
 - ◆学芸員の方々のサポートと見識の深さに触れとても良かった。参加者相互の意見交換がとても良かった
 - ◆参加して一番よかったのは、学芸員の先生方と、ともに学ぶ仲間と知り合えたこと。フィールドワークが楽しかった。「卒論」は苦労したが、関心を持ったことを調べてみて、思いがけない世界を知ることができた。宝物を発見した楽しさであった。その後も細々と郷土史の周りにいる原動力になっている
 - ◆カレッジの「3年」は長いと思ったが、密度の高いカリキュラムと関係施設の見学等をミックスしたプログラムに加えて、熱心な学芸員をはじめとする資料館のスタッフのご努力、ご尽力のお蔭で、有益で充実した時間を過ごすことが出来た
 - ◆失敗や感動ある充実した3年間であったが、なによりもカレッジの活動を通し、共に学ぶ仲間ができて、終了後も同窓会として活動を続けていけることが喜びである
 - ◆「自由」とか「民権」というものに、初めて接した日本人の考え方に強い興味を抱くようになりました。もともと、若いころから、地理・歴史は大好きでした
 - ◆先生方の講義は、毎回、大変面白くて、その高い学識に感心するうちにすぎてしまいました。いざ、卒論制作を始めると、私の未熟さから、テーマの学習・研究で手ごたえを得るには至らず、個人的な学習のまとめで終わりました。振り返ると、この失敗経験が、生涯の学習を考える転機になりました。これから先、人生最後の時まで、私はどんなふう学習を楽しみながら続けていくのかを考え始める、大きな節目になったと思います
 - ◆受けるだけの講座と違い、歴史や資料への向き合い方、考え方を学ばせてもらった。少なくとも自分が主体的に関われば歴史は面白い、と思える事に気がついた
 - ◆講義、史料講読、フィールドワーク、卒論作成と歴史を学び・考える楽しさを、先生方の熱心なご指導により充実した3年間でした。「生涯学習」「市民協働」の場として、全国レベルで誇れる企画でした。資料館の役割の一助になればと、他で活動する仲間達に、企画展や講演会の紹介、資料館の利用をPRしています
 - ◆カレッジの卒業生が集まり、共同作業をする場として「同窓会」が組織され、2011年4月以降活動を続けてきている。Diversityは同窓会の特徴の一つであり、その良さ処であると同時に、継続的な運営を難しくする原因ともなる。しかし色々な課題、問題を抱えながら十年近くもの間、一定以上の活動を維持できているのは同窓会のような組織に対する『需要』が間違いなく存在することと、そして多様性の尊重がそのキーであることを示していると思われる
- <次ページへ続く>

<続き>

◆自由民権カレッジが齎してくれた最大の利得は、郷土史に親しむことを通して「町田が第二の故郷」になったことだ。これは予想もしなかったことだが、幕末・維新期に生きた郷土の先人たちと彼らが生活をした場所や、縁故があった各種の遺物を間近に見、聞き、触れることによって、この地域が特別のものとなった。人生の途中からこの地に居を移し、おそらく終生の地となる者が多い町田のような区域に住む人間にとって、郷土史は「ふるさと創生」の役割を果たすことができる。カレッジを終えての実感だった

質問 3 : これからやってみたいことや学んでみたいことは何ですか

◆自由民権についてさらに深く学んでみたい
◆古文書をきちんと読めるようになるため、基礎から学びたい
◆日本近現代史（幕末、明治、大正、満州事変、日中戦争、第2次世界大戦）さらに深く学びたい
◆地域の歴史を調べたい
・年表にのらないような地域の事柄の掘り起こし
・風水害・自然災害に伴う地域特有の歴史を学ぶ
・立憲政友会時代の原敬と村野常右衛門の交流
◆「町田市史」編纂後に発見された遺跡や史料の学習、企画展や講演会への参加により知見を広め、町田の歴史を考える上で何が言えるのか考えてみたい
◆卒論をテーマとした「市民協働企画展」を無事に成功させたい
◆卒論研究で深めた内容を、別の視点で展開してみたい。他の人の卒論研究で取り組んだ内容を別の角度から展開してみたい。ライフワークとして
◆カレッジ卒業生達と歴史から現代まで、様々な問題意識を出し合い、学び、話し合っ互いに気づき、見識を深めていきたい。そのため資料館にお世話になりたい
◆自分一人では長続きがしないが、仲間がいれば出来ることはあると思う。新しく始まる分科会に参加しようと思う
◆分科会で学んだ事を纏め、市民、地域の方に見て頂けるようにしたい
◆市史(上・下)の民権活動関連等の記述部分の再確認、追加情報・資料等の見直し作業等。(新市史に備えてどうか)
◆或る民権家と儒学思想のようなテーマで、外部講師を招いた学習・研究の機会を作って頂ければ是非参加したい
◆明治国家 70 年の経過を多様な面からもっと良く知りたい。我々の世代の多くの者がこの時代を殆ど知らないが、自己の歴史を知らない集団に未来はない。将来のために『70年』を知りたいと思っている。なにせ人生百年の時代だから
◆仕事柄、海外の人とやり取りすることが多く、「自由」とか「民権」は、今日的な課題となっている国もあります。現在、「自由」とか「民権」が、「愛国」とか「経済」の前に、急速に無力化していつている感じがしてなりません。一方、日本においても、「自由民権運動」の高まりがありながら、実際には「戦争」に突入していった歴史があります。この辺の、「なぜ」を学んでみたいです

質問 4 : 資料館にはどのような印象をお持ちですか

◆今は全く違うが、馴染みのないときは、いささか難しそう
◆公設としては日本全国でも、高知市、福島県三春町と町田市の三か所しか無いと聞いており、町田市住民としては誇りに思う
◆全国にはない民権運動の史料が充実して興味のある人に紹介したいぐらい
◆自由民権運動が町田で盛んになった証として、資料館が在って欲しいと思います。教育、保存、研究のどれも削る事なく、サービス業（市民への広報）としての側面も自覚しつつ
◆「自由民権運動」に特化した資料館というイメージが強く、一般的に、町田市の「郷土資料館」という感覚が少ないと思います。近隣他市へ歴史散歩で訪れた際よく見かける光景ですが、小・中学校からクラス単位で見学に訪れる郷土資料館であって欲しい。生涯記憶に残る大事な学習の場でもあると考えます◆研究スタッフが充実していて、親切である。高齢者の多いカレッジ同窓会は、特有の難しさがあると思いますが、いつもどの先生も職員さんも温かく受け止めて下さり、心から感謝しています
◆交通面で不便なところにあるが、静かでゆっくりできるので良い環境と思う。
民権運動は短期間の活動であったこと、現在の町田の生活にどうつながっているかが分かりにくいので、一般市民に関心を持ってもらうのは大変だと思う。
◆町田市域の古文書等も保管・蓄積され、優秀な学芸員も親切に指導して頂け我々素人・初心者にとっては、教えて頂ける町田市ゆいいつの勉強・学びの場所と思っています
◆一市民が郷土史を学ぼうとすることを、喜んでくれ、支援してくれる場所。学芸員さんたちが多忙になりすぎず、それぞれのスタイルで今の印象を維持してほしい。一市民として一番気になるのは、非常勤の学芸員の身分保障である。今の状態では人の善意にあぐらをかかっているとされてもしょうがない。
◆資料館は、私にとっては「知の宝庫」です。閲覧室の書籍を見ると、昔の人たちが考えていたことが、「これを読んでくれ」と迫ってくる気がします。常設展示室でも、昔の人たちの息遣いが伝わってくる感じがしています
◆民権カレッジが出来たきっかけとなったときいている、武相地域資料編纂後の市民への還元、働きかけを今後も館の事業の柱の一つとして続けて欲しいと思います。民権カレッジは他の市区町村にも余り見られない講座だと思っています。実際、お忙しい中、歴史に素人の市民に真摯に向き合い、ご指導して下さる先生方には大変感謝しています。そういう社会教育の価値をどこに置くかは、眼に見えるはっきりした成果を数字で示せない事ですが、市民の宝（地域資源）という認識で文化行政に位置付けていただきたいと思います
◆学芸員の皆さんは自分の研究にきわめて熱心であると感じるが、たまに、その研究的側面が強すぎないかと感じる。学芸員の皆さんが自分の研究に忙しすぎるためか、市民に向けた教育的側面が弱く、市民教育を疎かにしているのではないかと感じる

質問 5 : 今後の資料館に求めることはどんなことですか (維持してほしいこと・変えたほうがいいことなど)

◆金井中学校との交流?のような、小中高大生対象の企画は考えられないか。来年以降、夏休みなどに、資料や学習場所の提供など。生涯学習は若者にも

◆町田市史の再刊に向けて、市民協働の体制づくり、史考会、地方史研究会、など市民グループとのネットワークづくりを市内中学の教員などともに進めるべきです

◆自由民権研究のセンターならば、若者、大学生などにも関心もたれる活動の構築、海外とのネットワークを作るくらい企画も欲しいです

◆「自由民権運動」に特化した資料館ではなく、町田市の「郷土資料館」として先史時代から古代・中世・近世・近現代に至る郷土史研究の史料収集・保存・研究・展示・学習の拠点として中心的役割を果たしてこそ存在意義を感じます。

◆「地方のことは地方で」と叫ばれる今こそ、疫病や自然災害に対処するためにも、地域の視座から歴史を深掘りする拠点として存在意義があると考えます。

◆「公共施設の再編」には教育・文化活動の縮小というイメージが付きまといますが、「米百俵の精神」のように未来の町田市民が誇れる教育・文化施設の拡充を念頭に、推進されるよう希望します

◆自由民権カレッジは、時宜を得た有益な事業だったし、今後とも是非継続してもらいたい。要望を加えるとすれば、その際には「自由民権運動」という比較的狭い範囲に対象を限定せず、多様な市民に門戸を開いた近代に重点を置いた郷土歴史の学習・研究の場つまり『ふるさと創生』を目的とするカレッジ (あるいは寺子屋?) という視点を入れて欲しいとおも

◆市立博物館がない現状では町田市の歴史資料センターとして、研究面だけでなく資料の収集・管理・公開の面でも重要な役割が求められると思う。(残念ながら市の認識不足や財政面など、多くの問題を抱えていると思うが)

◆今までの市民向けの行事は続けていただけるとよい。資料管理、研究、講演も欠かせないと思う。そのため、市のお力添えをさらにお願したい。

自由民権カレッジは、特に是非続けていただきたい。必要なら多少形をかえても。町田の宝?の一つでは

◆閲覧室の図書・書籍について、町田市の図書検索システムに登録して、書籍の有無を検索できるようにして頂けないか。また一般書籍については貸出を可能にして頂きたい

◆資料館に行けば、どこにどのような史・資料類があるか、保存している史・資料の細目を一覧できるデータ類 (目録類)。これが未完であるならば、同窓会の有志を手足に使、作業を少しずつ進めたら如何?

◆もう少し、国の内外への発信力を強めたほうが良いと考えます。少なくとも常設展示場は英文訳を併記するとか、町田の広報にも英文を載せるとか、海外にも発信したほうが良いと考えます。また、かかる資料館活動をしている、海外の同好者と、Zoom で議論できたら最高です。韓国とか、中国の人とも意見を交わしたいですね。多言語翻訳機が急速に進歩しており、言葉の壁は無くなっていると思っています。町田も、大勢の外国人が住む町になってきました。世界の人と一緒に、「自由」と「民」を考える、そんな資料館になれば最高かなと思います

◆「箱もの行政」は、これまで各地方行政に対する批判のトップグループに入ってきた項目だ。それは「箱もの」が住民の日常生活とは縁の薄い贅沢品で、公共団体の見栄とかその長の道楽だとかに多額の税金が投入されていると思われてきた為だった。しかし「箱もの」は、人口構成の変化、地方行政に求められるサービスの質・量の激変、デジタル技術の高度化とその目覚ましい普及等々の様々な変化により、市民生活との関係がもっとも深く、したがって各地方団体の住民の満足度に大きな影響を与えるような分野になってくる可能性がある。

自由民権資料館には、これらの社会経済のトレンドと住民意識の変化を先取りして、住民に最も有用なサービスを提供する「箱もの」のモデルになって欲しいと思う

◆郷土史、郷土資料館という古めかしいイメージが強く、その最重要の顧客は「子供たち」と思われがちだが、町田市の現状を素直に観察すれば、違うイメージが見えてくる。十分に大人になってから流入したために、いつまで経っても地域に足場を持てず意識の上では多くの市民は「よそ者」だ。高齢になれば、地域との繋がり=依存関係が急激に強まるのは確かだが、高齢者と地域との関係が「よそ者」では、今後、市民にとっても地域=行政にとっても不都合なことが多くなるに違いない

◆「行政改革プラン」「再編計画」は市政全体での整合性に欠けた、市民生活の質が大きく損なわれる、市民生活から遊離したバランス感覚を欠く問題点が多い計画である。その中で、民権資料館に提案された「効率的・効果的な施設運用手法の見直し」は「民間委託」だけを安易に想定する「悪い民間委託」になる可能性が極めて高い。

また、町田市の文化や歴史を伝える資料の維持管理コストを削減し、展示スペースの集約化を検討すると記す一方、民権資料館は役割を明確化し、事業内容を検討するとあるが、私たちは1986年に民権資料館が設立された初心に戻り、私たちの生活拠点としての民権資料館と共に歩んでいく。市政は『町田市史』の担当部署が民権資料館であることを忘れていないか、多くの市民の請願により『新町田市史』の検討が採択され、民権資料館がこれまで蓄積してきたノウハウを生かす時節が今到来したのだ

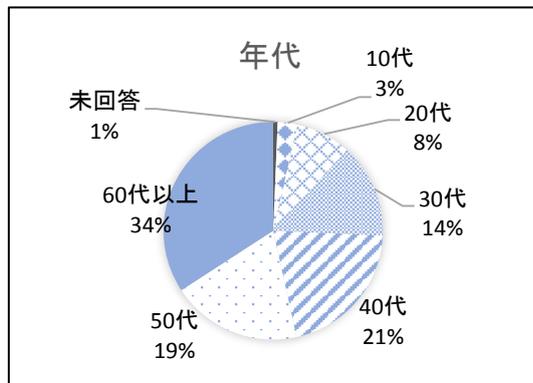
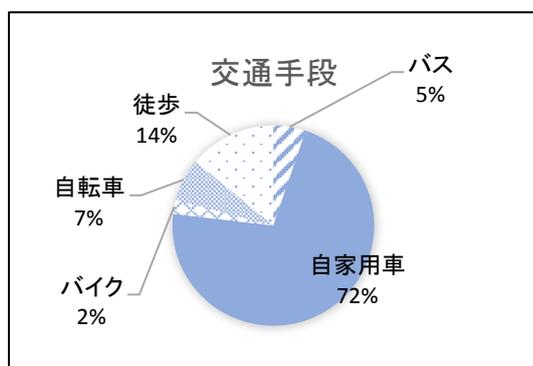
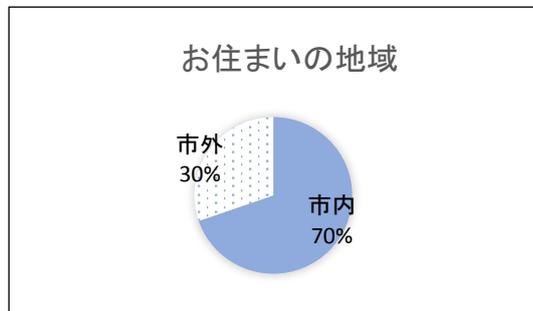
町田薬師池公園四季彩の杜におけるアンケート

自由民権資料館以外の施設利用者を対象に、自由民権資料館の施設や事業についての認知度や要望を調査し、今後の運営に反映させるためアンケートを実施しました。

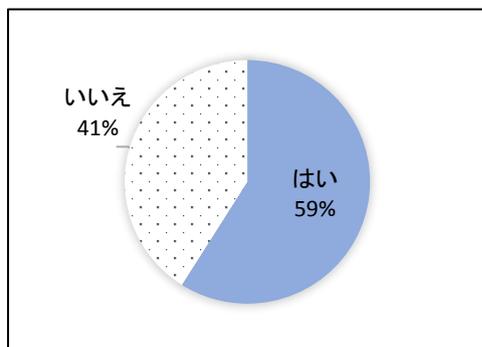
実施施設：町田薬師池公園 四季彩の杜 西園

実施人数：307人

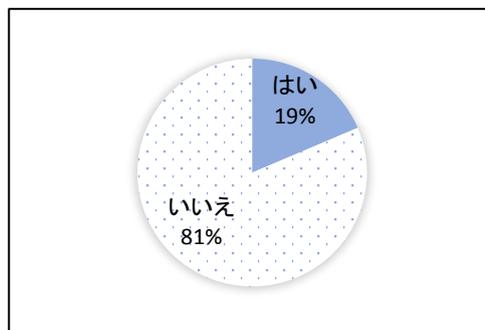
実施期間：8月1日（土）から15日（土）



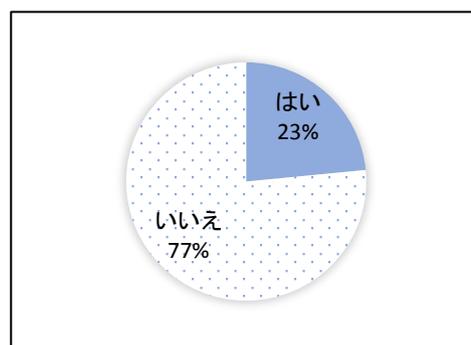
質問1 自由民権資料館のことを知っていますか。



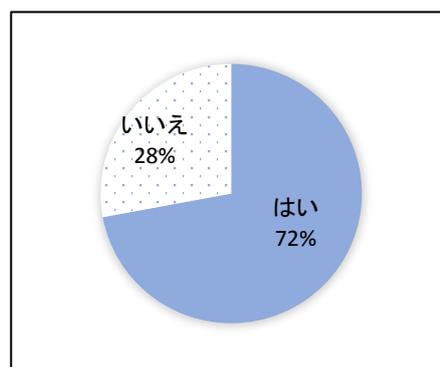
質問2 自由民権資料館に来館されたことはありますか。



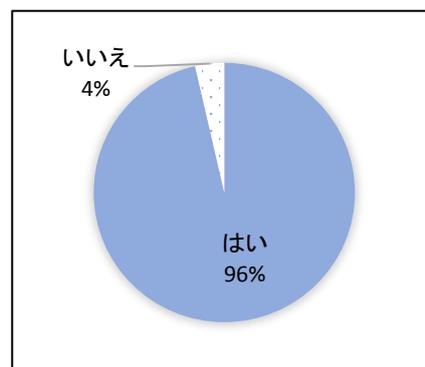
質問3 自由民権資料館は自由民権運動のほかに町田の歴史を扱っていますが知っていましたか。



質問4 町田の歴史には興味がありますか



質問6 町田の歴史を後世に伝えるために大切に管理していくことは必要だと思いますか。



質問5 町田の歴史のうち、どのようなことが知りたいと思いますか。

「土地（地域）に関する事」

- ▶地名（49人）
- ▶町田の土地のこと（土地の歴史。自分が住んでいないところのことを知りたい。昔何があったのか。地元のことを知りたい。引っ越してきたころのこと。昔の街並み。）（13人）
- ▶鉄道・道路・街道・城・建物・川・絹の道など（7人）
- ▶地名の由来・町田の由来（6人）
- ▶土地柄のこと（6人）
- ▶町田市が神奈川県だったこと（5人）
- ▶街の移り変わり（4人）
- ▶地形・地図（4人）
- ▶町田の成り立ち（4人）
- ▶自然・農村・動植物（3人）
- ▶薬師池公園の歴史（3人）
- ▶鎌倉街道・鎌倉古道（3人）
- ▶この辺（野津田・小野路周辺）が昔どうなっていたのか（2人）
- ▶今井谷戸の地形や谷戸のこと（2人）
- ▶住んでいるところ（地域）の情報を知りたい（2人）
- ▶駅の移り変わりなど
- ▶先祖のこと
- ▶地域の歴史や名所
- ▶昔の地名
- ▶町田の公園の歴史
- ▶領土・地主のこと
- ▶戦時中の町田市の状況

「人物に関する事」

- ▶人名（20人）
- ▶有名人のこと（織田、徳川や町田で活躍した人など）（8人）
- ▶白州次郎（8人）
- ▶城や、家康のこと
- ▶家康や新選組のこと
- ▶新選組
- ▶白洲正子

「産業や暮らしに関する事」

- ▶町田がなぜ発展したか（駅周辺の発展など）（7人）
- ▶昔の人の暮らし（3人）
- ▶昔の産業（富沢商店など）（3人）
- ▶食べ物の歴史（乾物など）（2人）
- ▶名産品
- ▶若い人が農業を継ぐのか
- ▶戦後の町田の発展

「時代に関する事」

- ▶縄文時代（2人）
- ▶古代のこと、戦国時代のこと
- ▶江戸時代から明治にかけて知りたい
- ▶町田の江戸—近代—現代のこと
- ▶戦国時代
- ▶西洋・中国の古代史
- ▶日本史

「遺跡に関する事」

- ▶土器（25人） ▶古墳（2人） ▶石器
- ▶遺跡 ▶横穴式墳墓 ▶馬頭観音 ▶防空壕

「その他」

- ▶通史（25人）
- ▶町田の歴史（教科書に載っていないのでそのような本があれば見たい。大きなトピック。大きな事件など）（5人）
- ▶自由民権運動（4人）
- ▶昔の写真（3人）
- ▶文化全般・版画美術館・博物館（3人）
- ▶大河ドラマは興味がある（2人）
- ▶過去よりこれからどうなるのか
- ▶神社・宗教関係
- ▶幕末・自由主義
- ▶最近の町田のこと
- ▶神蔵宗家
- ▶古文書の読み方
- ▶明治維新の時の町田の動き
- ▶占領軍が農地改革を行ったとき、小作人にどのように権利が生まれたのか。また、農地を取られた時の感想が知りたい
- ▶孫を遊ばせられる施設のことを知りたい
- ▶武相荘
- ▶国名

質問7 自由民権資料館にどのような印象を持ちますか。また、ご要望はございますか。

「印象」

- ▶固いイメージ（39人）
- ▶難しそう（24人）
- ▶団体、政治的に利用しているイメージ（17人）
- ▶入りづらい（15人）
- ▶自由民権運動の資料がある（たくさんある。資料ばかり。紹介している。大切なものがある。など）（13人）
- ▶名前を聞いても何の施設かわからない（13人）
- ▶歴史を扱っている施設だと思う（明治・大正時代を紹介している。など）（10人）
- ▶敷居が高い（ハードルが高い。ふらっと立寄れるところではない。厳格なイメージなど）（9人）
- ▶行きづらい場所（車が必要。など）（8人）
- ▶地元の歴史の施設とは思わない（郷土資料館・歴史を扱うとは思わない。など）（6人）
- ▶暗いイメージ・怖いイメージ・地味なイメージ（4人）
- ▶真面目そう（4人）
- ▶歴史又は明治時代の自由民権運動を紹介している施設（4人）
- ▶身構えて入るような施設（入るのに覚悟がいる）（3人）
- ▶名前は漢字が並んでいて堅い感じがする（名前がいまいち。馴染みやすい名称が良い。など）（3人）
- ▶宗教的なイメージ・思想が偏っていそう（2人）
- ▶古くさい（2人）

「建物について」

- ▶食事やお茶ができる施設にしてほしい（4人）
- ▶駐車場について（少ない。入りにくい。など）（2人）
- ▶階段があるから入りづらい
- ▶建物は立派だが入りづらい
- ▶前を通ると桜がきれい
- ▶公園みたいになっていると良い
- ▶寺だと思っていた

「必要性について」

- ▶どの地域でも郷土資料館は必要（2人）
- ▶民権運動は、日本の歴史の中で重要なことだと思います（続けていく必要がある。など）（2人）
- ▶昔を知るために必要
- ▶子供に地域への愛着を持たせるためには必要
- ▶資料の保管は大事だと思う
- ▶自由民権に特化した資料館はありそうでない
- ▶未来を考える上で、当たり前の世界がどうできてきたのかを伝えてほしい
- ▶この土地で民主運動に力を注いだ人物がいることを孫に伝えていきたい
- ▶素晴らしい施設。長く大事にしてほしい

「広報への要望」

- ▶宣伝をたくさんしてほしい（広報すると良い。宣伝が少ない。もっと知ってもらわなければならない。知らない人が多いと思う。広告等で知らせてほしい。地味だけれど宣伝をうまくやればもっと人が来る。など）（9人）
- ▶企画展示もあるようなので、駅や公共機関にもっと情報がほしい
- ▶歴史を扱っていることをアピールすると行く人が増えると思う
- ▶近隣の施設・公共機関等に分かりやすいPOPなパンフを置くといいかもしれません
- ▶町田の歴史を伝えるのに大切な施設だと思うので小・中・高校などにチラシを配布する
- ▶駅前施設（ポプリホールなど）にチラシを置くなどしてPRすると良い
- ▶知られていないと思うのでPRが大事
- ▶町田市の広報紙に掲載しているのは見るが、他市の広報にも掲載した方がよい。地域一帯で広報した方がよい
- ▶SNSがあればいいと思う（フェイスブックなど）

「その他」

- ▶行ってみたい（家族で行きたい。興味がある。など）（15人）
- ▶知っていても行こうとは思わない（足が向かない。など）（4人）
- ▶自由民権運動とかかわりがない（2人）
- ▶板垣退助が知りたい（板垣退助をイメージする。など）（2人）
- ▶子どもを連れて行けない（2人）
- ▶興味がある人しか入らないと思う
- ▶江戸時代を知りたい
- ▶どのようなところが気になります
- ▶市外なので全く知らなかった
- ▶改装してきれいになって施設に気がついた
- ▶自由な時代だからピンとこない人も多いかも
- ▶左派的
- ▶資料館の名称が若者にはとっつきにくいかも
- ▶前は通るけど入るきっかけがない
- ▶馴染みがない
- ▶町田市と自由民権資料館の関係が分からない
- ▶細かい（詳しい）資料があると思うのでゆっくり見たい
- ▶犬と行ける施設を知りたい。町田市は少ない
- ▶府中市よりも自然が残っていて素晴らしい
- ▶博物館なら行きたい
- ▶いろんな施設と一緒にあれば行ってみたい
- ▶町田市は文化施設が少ない
- ▶環境を新しくするなど新鮮さがほしい

「その他要望」

- ▶入りやすい雰囲気してほしい
- ▶自由民権にとらわれず幅広く知りたい
- ▶資料を積極的に収集して公開してほしい
- ▶ペットと一緒に入れる施設を増やしてほしい
- ▶カジュアルにすると行く
- ▶施設の目的以外に客を引き寄せるものがあればよい
- ▶自由民権運動のことを詳しく展示してほしい
- ▶地域の歴史の充実
- ▶町田市が東京になった理由が知りたい
- ▶当時、自由民権運動を始めようと思ったことがすごい。そのようなことを伝えてほしい
- ▶境川は昔狭かった。改修の歴史が知りたい
- ▶小野路城跡を見学可能にしてほしい
- ▶良いものを展示することが大事。イベントは無くても良いのでは。
- ▶いろんな施設と一緒にあれば行ってみたい。

「入館時の感想」

- 【良かった意見（11人）】
- ▶町田市で自由民権運動が盛んだったことをこの施設で知った。
- ▶空いていて利用しやすかった。
- ▶年に一度は行く。
- ▶新選組のことは展示を見て分かった。
- ▶きれいな施設でした。
- ▶外観はきれい。
- ▶多摩地域の民権運動が理解できた。
- ▶石阪美那、北村透谷の結婚など民権家を知ることができ勉強になった。
- ▶空いていて良かった。
- ▶ゆっくり歴史の本を読んだ。
- 【良くなかった意見（4人）】
- ▶入館したがあまり興味を持たなかった。
- ▶展示などが分かりにくかった。
- ▶展示が子ども向けではない。
- ▶通いたくはならない。

「その他要望」

- ▶子どもに関すること（遊べるような施設にしてほしい。子どもが行ける感じにしてほしい。子ども（乳幼児）の過ごすスペースがほしい。子ども向けのイベントを行ってほしい。子ども（学校）に来てもらえるようにしてほしい。など）（10人）
- ▶改名に関すること（『歴史資料館』『町田○○』親しみを持たせる名前にしてほしい。名前が固い。名前に『歴史』を入れた方がよい。子どもが利用しやすい名前にする。若い方も興味を持つような名前が良い。など）（7人）
- ▶イベントや展示に関すること（フィールドワークの充実。分かりやすいパネル展示をしてほしい。フランクなイベントをしてほしい。民芸品などがあれば見たい。など）（4人）
- ▶散歩のついでに入れるような施設にしてほしい（2人）
- ▶教育現場が活用すればよいと思う。小学校の校外学習の場になると良い（2人）
- ▶どのような史料があるのか知らないの公開してほしい
- ▶専門的な施設だと思うが、一般的な解説を聞きたい
- ▶講演会を開いてほしい（実施していることを知らなかった。）

生涯学習施設におけるアンケート

自由民権資料館以外の施設利用者を対象に、自由民権資料館の施設や事業についての認知度や要望を調査し、今後の運営に反映させるためアンケートを実施しました。

実施施設：生涯学習センター・鶴川ポプリホール・金森図書館・忠生図書館・堺図書館

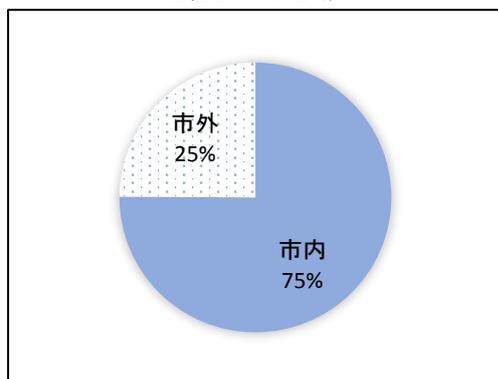
実施人数：294人

実施期間：10月30日（金）から11月1日（日）生涯学習センター

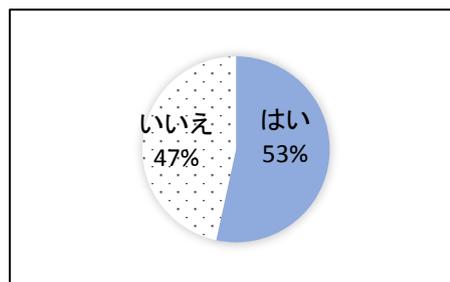
10月24日（土）鶴川ポプリホール・金森図書館

11月3日（火・祝）忠生図書館・堺図書館

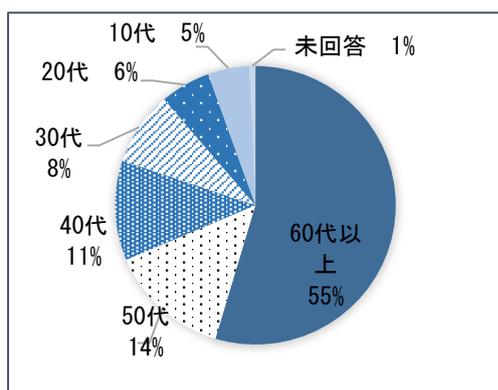
お住まいの地域



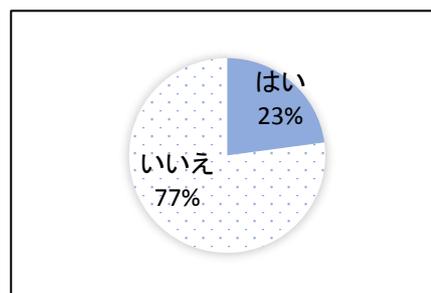
質問2 自由民権資料館のことを知っていますか。



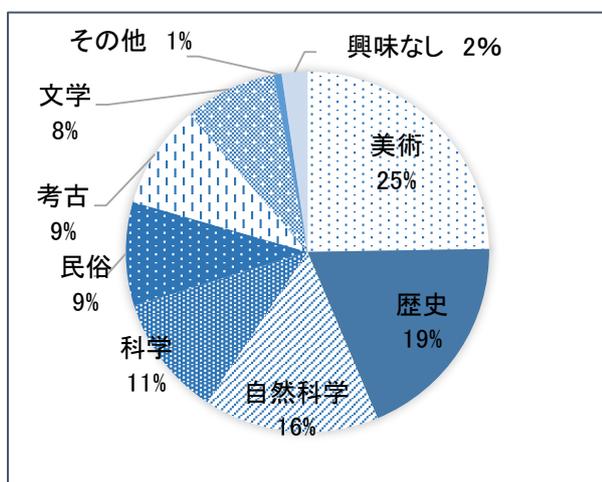
年代



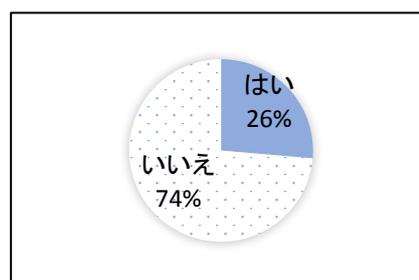
質問3 自由民権資料館に来館されたことはありますか。



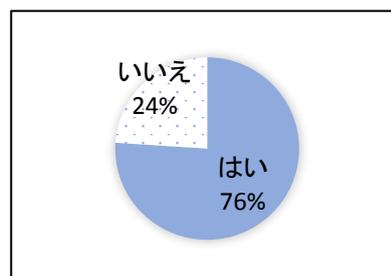
質問1.博物館に行くとしたら、次のどの分野に行きたいですか。(複数回答可)



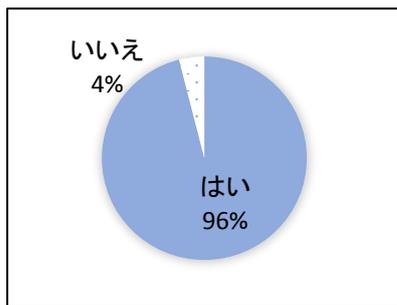
質問4 自由民権資料館は自由民権運動のほかに町田の歴史を扱っていますが知っていましたか。



質問5 町田の歴史には興味がありますか。



質問7 町田の歴史を後世に伝えるために大切に管理していくことは必要だと思いますか。



質問7 町田の歴史を後世に伝えるために史料を大切に管理していくことは必要だと思いますか。

『はい』と答えた人の割合

鶴川	93%
金森	100%
忠生	97%
堺	100%
原町田	95%

地域別検証

アンケートを行った鶴川ポプリホールを**鶴川地域**、金森図書館を**金森地域**、忠生図書館を**忠生地域**、堺図書館を**堺地域**、生涯学習センターを**原町田地域**と5つに区分けして検証を行いました。

質問1 博物館に行くとしたら、次のどの分野に行ってみたいですか。

『歴史』を選んだ人の割合

鶴川	21%
金森	16%
忠生	15%
堺	25%
原町田	19%

質問2 自由民権資料館のことを知っていますか。

『はい』と答えた人の割合

鶴川	67%
金森	51%
忠生	48%
堺	57%
原町田	49%

質問3 自由民権資料館に来館されたことはありますか。

『はい』と答えた人の割合

鶴川	27%
金森	10%
忠生	16%
堺	20%
原町田	27%

質問4 自由民権資料館は自由民権運動のほかに町田の歴史を扱っていますが知っていましたか。

『はい』と答えた人の割合

鶴川	24%
金森	15%
忠生	13%
堺	23%
原町田	35%

質問5 町田の歴史には興味がありますか。

『はい』と答えた人の割合

鶴川	69%
金森	82%
忠生	74%
堺	80%
原町田	77%

検証

▶質問1では、どの地域も約2割の方が歴史に興味を示されました。

▶質問2では、自由民権資料館のある、鶴川地域での認知度が高いようです。なお、忠生や原町田で認知度が低くなっているのは、他地域のアンケートと比べ市内の方の回答が少なかったことが要因と推察されます。

※市内の回答者

鶴川	87%	金森	100%	忠生	77%
堺	86%	原町田	55%		

▶質問3・4では、認知度の高い鶴川・堺地域で来館された方や郷土資料館としての役割を知っている方が多いようです。なお、原町田地域で割合が多い結果については、アンケートの実施施設で歴史講座等が開催されることもあり興味を抱かれています。または、各種講座等へ参加される学習意欲の高い方が多かったと推察されます。

▶質問5では、若干の地域差は見られるものの約7割以上の高い割合で町田の歴史に興味があるようです。

▶質問7では、若干の地域差は見られるもの高い割合で史料の管理が必要だと思われています。

質問6 町田の歴史のうち、どのようなことが知りたいと思いますか。

《土地（地域）に関する事》

- ▶地名（82人）
- ▶地名の由来・町田の由来（6人）
- ▶町田の土地のこと（土地の移り変わり、地理、土地の歴史、地名の変遷など）（5人）
- ▶城・寺・墓（2人）
- ▶町田市が神奈川県だったこと（2人）
- ▶街の移り変わり・成り立ち（2人）
- ▶鶴川のこと（鶴川村の由来など）（2人）
- ▶小山田（寺）について
- ▶野津田について
- ▶相原について

《遺跡に関する事》

- ▶土器（50人）
- ▶遺跡（2人）
- ▶縄文時代の建物
- ▶昔使われた道具
- ▶井戸
- ▶石造物について（地蔵や石碑など）
- ▶考古

「人物に関すること」

- ▶人名（町田市の地主など）（38人）
- ▶有名人のこと（町田で活躍した人など）（5人）
- ▶新選組（関連の神社など）（3人）
- ▶白州次郎について
- ▶小野小町について
- ▶八木重吉について

「産業や暮らしに関すること」

- ▶町田がなぜ発展したか（3人）
- ▶昔の暮らし（1人）
- ▶繭・絹の生産が盛んだったこと

「時代に関する事」

- ▶近代のこと（明治から大正までなど）（2人）
- ▶縄文・弥生時代（1人）
- ▶縄文期～昭和にかけての変化
- ▶幕末期～民権運動
- ▶江戸時代のこと

「その他」

- ▶通史（48人）
- ▶自由民権運動（30人）
- ▶民俗（2人）
- ▶昔話
- ▶現在の町田に残っていないものが知りたい
- ▶昔のこと
- ▶これからの町造りの土台になるような資料
- ▶美術
- ▶郷土史
- ▶方言の歴史
- ▶文学関係
- ▶町田の歴史全般
- ▶町田市史（改訂が必要）

「印象」

- ▶資料をたくさん集めている
- ▶書物で見た印象がある
- ▶学生が調べ物で使う施設だと思う
- ▶民権運動にかかわった人が町田にいるのだと思う
- ▶国会を開くために活躍した人達の歴史を展示してある
- ▶気軽に入館できる

「建物について」

- ▶桜がきれい（2人）
- ▶建物がきれい（2人）
- ▶駐車場が少ない
- ▶階段を上がるのが大変
- ▶建物の雰囲気が良い
- ▶存在感がある

「必要性について」

- ▶存続について（存続を強く望みます、閉館する施設が多いが、施設を残してほしい、ぜひ続けてほしいなど）（3人）
- ▶歴史を極めるため役立ってほしい

「広報への要望」

- ▶宣伝をたくさんしてほしい（何があるのか伝えてほしい、知らない人が多いと思うなど）（9人）
- ▶目につくところに資料館を知ることのできる何かがあれば良い
- ▶どんな宣伝をしているのかわからない

「その他要望」

- ▶もっと深く知りたい（明治の日本、五日市憲法、東京に移管されたこと、自由民権運動など）（5人）
- ▶子どもの関係をもっと充実させてほしい（子ども向けの展示を行ってほしいなど）（5人）
- ▶町田ならではの人物について知れると良い（田中正造、田尻智、白洲次郎）（2人）
- ▶展示内容が限られていると思うので、他の題材とマッチングが必要だと思います
- ▶土器などを展示してほしい
- ▶地名の由来について教えてほしい
- ▶もっと楽しげな雰囲気がほしい
- ▶簡単に読みやすいものを置いてほしい
- ▶資料の保存に力を入れてほしい
- ▶目玉みたいのがあれば良い
- ▶名前に『自由』がいないのではないかと（堅いイメージだから）
- ▶自由民権は若い人は意味が分からないと思うので分かりやすく説明してほしい
- ▶自由民権運動が盛んになった経緯と下火になった理由を知りたい
- ▶目立たない
- ▶周辺の公園などと連携してほしい
- ▶流行りもの（時代劇、アニメ）に関連した企画展を行ってほしい
- ▶現代までの発展の展示があれば行ってみたい
- ▶災害の歴史を知りたい
- ▶30年前くらいの町田の風景を展示してほしい
- ▶もっと充実してほしい

質問8 自由民権資料館にどのような印象を持ちますか。また、ご要望はございますか。

「印象」

- ▶固いイメージ（24人）
- ▶名前を聞いても何の施設かわからない（何が置いてあるのか分からない、博物館なのか文書館なのか公文書館か？など）（17人）
- ▶自由民権運動の資料がある（板垣退助の資料、伊藤博文の資料、名前のおり、資料や本がたくさんある、町田で自由民権運動が盛んだった）（15人）
- ▶難しそう（11人）
- ▶行きづらい場所（交通の便が悪い、車が必要など）（11人）
- ▶歴史を扱っている施設だと思う（明治期を紹介している、町田の歴史を扱っている、町田の民権家を紹介、など）（8人）
- ▶選挙、政治的に利用しているイメージ（8人）
- ▶若い人は行かないと思う（子供向きではない、子どもを連れてはいけないうなど）（5人）
- ▶地元での歴史の施設とは思わない（郷土資料館・歴史を扱うとは思わないなど）（2人）
- ▶五日市憲法を扱っている（2人）
- ▶入りづらい（気楽に入れない）
- ▶敷居が高い
- ▶地味なイメージ
- ▶宗教的なイメージ
- ▶名前が古くさい
- ▶博物館だと思う
- ▶石版をイメージ
- ▶多くのことを調べている（研究している）
- ▶なんか凄そう

≪その他要望≫

- ▶資料をデジタル化してウェブで見られるようにしてほしい
- ▶町田市の変遷を知りたい
- ▶時代を絞らない視野で見せ方を工夫してほしい

≪入館時の感想≫

【良かった意見（10人）】

- ▶良く調べてある
 - ▶このままで良い
 - ▶見やすかった
 - ▶町田の歴史が知れてよかった
 - ▶自由民権の歴史を実感し誇りに思う
 - ▶学芸員の講演を聞いてなぜ町田でその運動が起きたかなど面白かった
 - ▶多くの町田の先人達が運動に力を注いでいたと知って新鮮だった
 - ▶時代を築いた方の書を見て歩いた気がします
 - ▶古文書講座に出席しもっと長期に学びたかった
 - ▶資料等は分かりやすいです
- 【良くなかった意見（4人）】
- ▶行ったけど何もなかった
 - ▶思ったより良くない
 - ▶自由民権について具体的な内容が分からない
 - ▶館の目的が分からない入館したがあまり興味を持たなかった。

≪その他≫

- ▶行ってみたい（ストーリー性があれば、子どもと行きたい、興味がある、アクセスが良ければなど）（21人）
- ▶人があまりいない（車がいつも止まっていないなど）（2人）
- ▶若い人に見たり、興味を持ったりしてほしい（2人）
- ▶孫が行きたがっている
- ▶興味が引かれない
- ▶分かりやすいイメージを作ればみんな行くと思う
- ▶自由民権運動発祥の地であることや、三多摩のことは知っている
- ▶日常生活であまり聞かない名前である
- ▶民権運動は短期間（歴史の一部）なので知ることが少ない
- ▶町田の歴史は自由民権運動だけでない
- ▶興味のある人、無い人がはっきりするので運営が難しい
- ▶史料は大切だと思うが必要以上の箱モノは作る必要はないと思うので税金の使い方を考えてほしい
- ▶歴史文学・時代小説関係の会と交流をしたい